

# 幼児の教育

第五十二卷 第七號



日本幼稚園協會

7

# フレーベル館の28年度保育用品

- No. 41 幼児指導要録  
B 5判、4頁、 定価 一部 5 円
- No. 42 幼児指導要録の趣旨と  
その取扱いについて  
定価 4 円
- No. 45 保育日誌  
定価 1 枚 2 円
- No. 47 園籍簿  
定価 1 枚 2 円
- No. 48 身体検査票  
定価 1 枚 2 円
- No. 50 園のたより  
A 6判28頁 定価 15 円
- No. 51 つうえんブック  
定価 15 円
- No. 53 卒園臺帳  
B 5判 定価 1 枚 2 円
- No. 55 保育料袋  
定価 1 枚 2 円
- No. 56 保育證書 (A)
- No. 57 同 (B)  
AはB 4判、BはB 5判  
定価 A 7円 B 5円
- No. 58 園児募集ポスター (A)
- No. 59 同 (B)
- No. 60 同 (C)  
定価 ABC 各20円
- No. 72 出席簿 (縦型)  
定価 1 枚 2 円
- No. 74 園のたより用ゴム印  
欠と休をあらたに入れました。  
1組 14ヶ 定価 200円
- No. 75 綴込表紙  
B 5判 何でも綴り込めます。  
定価 50 円

- No. 101 出席カード  
表紙裏に、身体検査表と月別欠出席表  
を入れました。  
A 5判13枚 (表紙共) 定価 35 円
- No. 103 出席カード用貼紙  
10人分12ヶ月一箱 定価 200 円
- No. 111 むりえ (初級)
- No. 112 同 (上級)  
B 5判各16枚 定価 各 35 円
- No. 118 おさいく帳 (B)
- No. 119 同 (A)  
鼠紙10枚、黒紙2枚  
(B)はB 5判 定価 32 円  
(A)はA 4判 定価 40 円
- No. 126 自由画帖 (A)
- No. 127 同 (B)
- No. 128 同 (C)  
Cは上質ざら紙30枚  
定価 A 35円 B 30円 C 25円
- No. 131 折紙 (特製5寸) 定価50円
- No. 132 同 ( // 4寸) 定価40円
- No. 133 同 (並製5寸) 定価35円
- No. 134 同 ( // 4寸) 定価25円  
以上いずれも1色100枚包の値段です。  
色の種類は18色。(並製は15色)
- No. 155 まんてんくれよん(12色)  
定価 60 円
- No. 156 同 (10色) 定価50円
- No. 157 同 (8色) 定価40円
- No. 158 お道具箱(木製)定価60円
- No. 159 同 (紙製)定価35円
- No. 160 鋏 (先丸鋏) 定価35円
- No. 168 たのしいおしごと(No. 1)
- No. 169 同 (No. 2)  
定価 各 45 円
- No. 171 組別名札 (板型)  
両面色紙ばり、色の種類は赤、黄、緑、  
白、桃、藤、水色の7色 定価1個2円

発行所 東京都千代田区神田 株式会社  
小川町二丁目五番地

フレーベル館 振替口座東京  
一九六四〇番

# 幼 児 の 教 育

第五十二卷

第七号

昭和二十八年七月

## 目 次

表紙	三	岸 節 子
人間性の涵養 (3)	倉 橋 惣 三	(2)
(ヌース) 一つの希望	多 田 鉄 雄	(4)
<b>夏季保育誌上講習会</b>		
幼児の製作の新しい指導	及 川 ふ み	(6)
幼児の精神衛生	松 村 康 平	(11)
夏の保育医学	平 井 信 義	(16)
幼稚園の最近のすう勢	玉 越 三 朗	(21)
(講話) 生理欲望の教育 (4)	加 藤 常 吉	(28)
7月の保育	堀 合 文 子	(36)
	鈴 木 と く	(36)
☆ この子供たち ☆	松 原 至 大	(45)
ゆうぎ講習会 (予告)	お茶の水女子大	(26)
幼稚園教員免許法認定講習会		
○官庁公示連絡事項		
昭和28年度の幼稚園、小学校研究集会の実施について	文 部 省	(44)
—盛大に行われたキンダーブックまつり—	フ レーベル 館	(27)

編集主幹	倉 橋 惣 三		
協力委員	牛 島 義 友	及 川 ふ み	斎 藤 文 雄
	多 田 鉄 雄	波 多 野 完 治	山 下 俊 郎
編集委員	西 山 浪 太 郎		(五十音順)

発 行

日 本 幼 稚 園 協 会

# 人間性の涵養 (三)

倉 橋 惣 三

人間的に受取られることは、信頼感を生ぜしめる。それが裏切られるときには不信のこゝろを生む上に、人間としての不満、広く人間というものへの不満となる。幼児の世界のことは、どうせ小さいことである。しかし、その子にとつては大きいことである。従つて人間的経験としては深刻でもある。事件の内容は——殊におとなから見てもいゝようなことであつても、当人としては深刻たらざるを得ない。それが、

その事件としてとなく人間全体への不満となるとき、その一生への印銘は極めて大きい。或は、その子にある人間性そのものを覆えずことであるかも知れない。——そういうことが案外世にないといえないのである。生れながらにして人間性の無いものは決してない。たゞ案外多くの者が、人間性の失望によつて、そのたんに、人間性を奪われるのである。幼児にとつて不幸これに過ぎるはない。

殊に、人間性の強く濃厚を幼児において、その失うところ

が多い。『此の小さき者の一人を躓かす者は寧ろ大なる硬児を頸に懸けられ悔の深処に沈められん方益なり』幼児に人間性を裏切らせる者は、すなわち彼である。しかも、この恐ろしいことが、何の心づきもなき不用意の中に行われているのである。恐ろしい。幼児に接するもの慎しむべきである。人間性は識らぬ時に養われ、識らぬ時に破られる。

人間性を失わせることは、人間的意識過剰によることが屢々であり、それは屢々倫理観念の喚起によつて冷却され、硬化されることも屢々である。幼児教育において、修身の教育が細かく警戒せられなければならぬというのもその故である。道徳は、人間性の結実であるが、また屢々、人間性を枯渴させる。折角く愛と知らず愛を持している子を、愛と知らせることによつて、愛の人間性を失うことも多いのである。

人間性は人間と人間との接触において経験せられるといつた。その接触は意識にも至らない淡い場合こそ、最安全であ

る。真実である。淡々たる間に、涵養されるのが貴い人間性である。人間性の涵養を、語を設けて説くときに、人間が人間の面をかぶり、人間を意識するのでもある。確しかな人間性の教育。しずこゝろなく咲き、しずこゝろなく散りて

こを花の美である。花を鑑賞する人も亦、そうでなければならぬ。花は識らない。美しい〜というは詩人の言である。詩になるとき、既に、どこかに作為がある。謡になりるおいておや。幼児の人間性は朝の露の玉の如し、さわれば濁る。美しい〜ところがせば、地に落ちて、こわれもするであらう。かすかにして、かすかなるがゆえに実在するものは幼児の人間性である。

人間性の涵養というとき、おとなの人間性が涵養主体となるようにも聞こえる。しかも、そのとき、おとなのにしてもかすかな場合のみが、幼児の人間性を涵養するのである。

赤色黄色に染めるのではない。寧ろ多くの場合、洗淨するのである。色や味の、こどもらしくもなくついているとき、洗い落として、人間性の純白になすのである。そこに、人間性涵養の自然がある。——母が我子を愛するとき、自ら愛を意図しない。母性愛は、道徳的善でもない。その母に、我子を愛しているかと問うとき、格別、愛してもいなしとか覚えなければならぬとか、思惟していないであらう。——だか

らこそ、その純愛に涵養せられもするのである。生母においてこそ、子は無心の愛に涵養せられるのである。

子の親におけるも、そうでありたい。「孝」という教えほど、親子の間を倫理化するものはない。冷くするものはない。固くするものはない。少くも「孝」は訓えであつて、涵養ではない。——親子の心の間の人間性が涸れた場合にあつたのみ、楷書で書いた「孝」の訓えが必要になるでもあらう。

私は儒教的修身教育を、幼児教育において好まない。孔子は豊かなる人間性を説かない人ではない。しかし、訓とするとき余りに整い、余りに一般的に適用されんとする時、孝の種類や、孝の厳しさが論ぜられて、孝の人間性のたのしさを、一本流露の自然が欠かれる。私は、一、三才の幼児には親と一般の語や文字を対象としての、孝の訓えを説くことを、怖れもする位である。親と子との間に通る人間性でこと足りる。『親と子との人間性、そのほかに修身訓はなくもがな』とも言おうか。



## 一つの希望

多田 鐵雄

幼稚園に入園の当時、誰とも全く口をきかなかつた子供が、次第にお話の仲間に入るようになったのを見たり集団の中で勝手気ままな行動をして周囲の子供たちに迷惑ばかりかけていた子供が、だんだん周囲に協調して行くありさまを見ていると、「あゝやはり幼稚園かな」と思う。又親たちから「幼稚園に通うようになってから、規則的な生活をするせいでしょうか。適当な運動をとることがつづくからでしょうか、子供が入園前とは打つて變つて丈夫になりました」と感謝されたりすると、日本中の凡ての子供が、ほんとに一人の例外もなしに幼稚園の生活を体験することが出来るようになれば、どんなにいゝだろうと考えるのである。しかし、このように幼稚園教育者の努力がてきめん利いて行くこの時期の子供の取扱いは、それが万一にも誤まつてゐるならば、これ

亦その子供にとつて取返しのない損失になるのだと云うことを、ひるがえつて考えると、その責任の重大さに、たゞたゞ恐ろしくなるばかりである。そのようなわけであるから、幼児教育に当るものは、たえず思いをここに致して、あやまることのないように、又はあやまりのより少いようにと、正しい教育の実際を考えて行かなければなるまい。

私の幼稚園の創立何十周年かの記念式のこと、卒業園児総代で東大を出た二十六才の青年が祝辞を述べたことがあつた。その祝辞の中で幼稚園時代の思い出にふれて「あの頃、園長先生に先導されて両手を握り、ヨイシヨイシヨと舟を漕ぐ動作を繰返したことが、未だに時折思い出されるばかりか、今でも僕が仕事や何かで難関にぶつかつたりすると『こうしてヨイシヨ、ヨイシヨと力一杯、一生懸命漕いで行けば、どんな大波の中をも乗り切つて行けるのです。さあ、皆で力一杯、一生懸命に』とはげまして下さつた園長先生の言葉が脳裏によみがえつて来て、何くそと僕はがんばる気持になるのです」と云うのであつた。これは故高木兼寛博士の創案になる国民体操と云うのを当時は私の幼稚園で取入れていたからである。もしこのような幼稚園時代の経験が半生にわたつて生きているとするならば、これは大変なことであ

る。私は自分の幼稚園時代の記憶をやはり沢山持つているが、それは今思い浮べても、ほのかに心あたたまる、甘い、やさしいことばかりであつて、その中に強かつた子供と対抗して争つたことどももふくまれているが、それも喧嘩であるとか、憎しみであるとかの性質は帯びていなかつたように思い出される。又よく幼稚園から来た子供は小学校で知つたか振りをしたりして不真面目で困ると云うようなことが云われ——もつともそれは小学校

の先生の指導、取扱の仕方が不十分であるからだ、私は理由付けているのである——るが、私に関する限り、学校の先生が優秀であつたせいもあるうが、小学校へ入つた当時は、緊張して先生の云うことをよく聞き、行儀もよかつたので、第二学期には級長にされたほどであつた。——ただしその後はあまり香ばしくないのであるが、それはよこみちのことであり、云わぬが花でもあるう——それであるから、私は自分なりにその当時はよい園児であつたし、小学校新入生としてもよい児童であつたとばかり考えていたのである。ところが私が三十二三の頃、ふとある人と逢つて幼年時代を話し合つたところその人は私と同じ幼稚園にいたのであり、しかも三ヶ月だけでやめてしまつたのだそうであるが、その理由が、一人の子供にいじめられて恐くて幼稚園に行けなくなつ

たからであつた。そしてよく話を進めて見ると、私には全くおぼえがないのに、その人はそのいじめた子供が私であつたと推定するのである。名前、住所、境遇などをその人は、はつきりおぼえていて、それが寸分間違ひなく私なのである。知らないうちに一人の子供にこんなにも影響を与えた。これも大変なことだとつくづく思つたのである。

このような問題はこれまでになされている幼児教育に関する色々の指導書によるだけでは、はつきりとはとらえられて来ないものであらう。もしこのような事実、材料が私たち幼児教育に当る者に示されるならば、どんなに有益であらう。たとえば、私はさきほど牛島義友氏の「小学生の心理」を面白く有益に読ませていただいた。それは青年男女が小学校時代を回想して書いた手記を材料にして小学生時代の心理をとりあつかつているのである。これと同様な方法で、即ち成人が自己の幼稚園時代を回想して書いた手記をあつめ、それを整理して、幼稚園時代の心理、生活、影響、その他の問題点を示してくられるような仕事を企てて下さる人が出て来たら、どんなに有難いことかと思つたのである。

# 幼児の製作の新しい指導

及 川 ふ み

幼児の製作の指導の実際の面で、もつとも欠けている点は幼児の成長発達段階の理解の不足ということが云える。新しい幼児の製作の指導にあつて最初に考えられなくてはならないことがこの幼児の成長発達の状態の理解であると思われる。

アーノルド・ゲゼル著、心理学（出生より五才まで山下俊郎訳参照）の文化材に対しての変化の中から、幼児の絵画製作に直接関係の深い事項を抜いてみると、

## 「一才半」

描 画

- 腕全体を動かす。
- 紙の上に描くことはほとんどない。弓なりに描くことが多い。
- 一色だけで満足する。

## 「二才」

描 画

- 一才半の頃より手首の動きがよくなる。
- 色におかまいなしに紙をこしこすする。いく種類もの色を強くぬりかさねるので、にごつた色になつてしまふ。
- 縦横の直線、点および円を描いてみる。
- 紙からはみ出す。机、画架、床、自分の

手、友だちにぬりつける。

○こどもにとつては描く過程が大事なので出来上りが大事でない。

○気がちりやすい、手の動きをいつもみているという工夫にはいかない。

○一枚の紙の上に他の子どもと一緒に描くという社会的な楽しみをもつ。

指 絵

○絵具の手ざわりや、手のよごれることをはじめはきらう、しかし数回やつてみると面白がるようになる

○手全体がリズムカルに動く

粘 土

○粘土の手ざわりや手のよごれることをはじめはきらう。しかし数回やつてみると面白がるようになる。

○手でいろいろというじむる、たいたたり押ししたり、小さくちぎつたりする。そしてよく大人へ手渡しする。

○粘土と一緒に他の材料を使う、たとえば舌おさえや、積木、自動車、木製動物。

絵

○あまり細くなく、はつきりした色



夏季保育誌上講習会

雑

を使つた単純な絵を好む。

○ 触覚はするどい。

○ 粘土、絵具、クレオン、などのよ  
うないろんなものをなめてみる、  
ガラスや木にも舌をつける。

○ この年令では模倣がはげしい。

〔三才〕

描画

○ 筆のタッチが強くあらわれてくる。

○ 形の持つたものが表われる。

○ しばしば一色で紙全体をぬりつぶすこと  
を喜ぶ。

○ 年上の者とか絵のうまい子の絵をみるこ  
とにより刺戟される。

○ 自分のかいたものに喜びと誇とをもちみ  
せびらかす。

○ 外のものと一緒の紙を使うことを好まな  
い。

指 絵

○ 手全体の運動のみでなく、指の運動が明  
瞭になる。

○ 少し形があらわれる。

クレオン

○ 変化した色を使いたがる。

○ えのぐよりクレオンの方が早く形が出来  
てくる。

粘 土

○ たたいたり、手で穴をつくつたり、ねじ  
つたりしていじくりまわすことを喜ぶ。

○ ボールを作つたり、細長く形をつくつた  
りして形が出来てくる。

○ 実物に大体にたものに命名する。

○ 幼稚園で家の人の為に特に母親のために  
よき作品をつくるが家に持つて帰るのを  
しばしば忘れる。

〔四才〕

描画

○ 大人の様な仕方では鉛筆をもつ。

○ 一つの絵に長い間注意を持続してかいて  
いる。

○ 絵をかきながら考えが変化して題材が変  
つたりする。

○ 絵をかきながら言葉により説明をくわえ  
る。

○ 子供にとつて重要な部分をもつとも大き  
くえがかれる。

○ 自己批判が出来る。

○ えがいたものを家にもつていきたがる。

粘 土

○ 表現力、想像力が急速に発達する。

○ 作品に色をぬることを喜ぶ。

○ 作品を保存することを望む。

所有物

○ 外の人に自分のものをみせじまんする。

○ 特定の友人に対し、自分のものをわけて  
やる。

○ 大きなベットの様に大人用所有物をしま  
んする。

○ 幼稚園でつくつた自分の作品について強  
い固着力をもち家にもつて帰りががる。

○ 所有物の交かんが始まる。

〔五才〕

描画

○ はじめから一定の意をもつて描  
く。

○ 描いたものが大でい何を描いたか  
わかるものが多い。

○ 絵はたいいて簡単なもので三つか  
二つの部分をもつている。

○ 子どもにとつて一ばん大切な部分  
を大きくかき花の方が家より大き

夏季保育誌上講習会

## 夏季保育誌上講習会

くなるがよくある。

○色を知つていてその名称を正しくいう。

○描く対象に人、家、舟、汽車、自動車、動物、太陽のある風景などである。

○しばしば考えたものを描きあげる力のないことを自覚する。

## 粘土

○一般に一定の目的をもつてつくつたものはそれと判断出来るようなものを作らずなわち贈物をつくつたり、人形遊びやお店ごっこなどのごっこ遊びに使うものをつくつたりする。

○作つたものに色をぬることが多い。

以上はアメリカの保育学校においてミシジャネットランドの観祭記録によるものである。民族的の大なる素質、環境の差異のある点は考慮しなければならぬが、一つの参考資料である。

次に直接に指導に当る対象幼児の実体調査によつて幼児個人個人の発達状態を理解することである。

これは入園当初の家庭状況調査による幼

児の環境のうち特に絵画製作の指導の上に参考資料となる次の諸点の調査が考えられる。

○クレオン或は鉛筆、絵具等何カ月頃より与えはじめたか。

○描画について形があらわれたのは何カ月頃であるか。

○缺を与えたのは何カ月頃であるか。

○絵本をみはじめたのは何カ月頃であるか。

○現在家庭で与えている絵本は何か。

○兄弟その他の家人より幼児の描画及び缺使用などの製作に直接に關係して影響を受けているか。

などの諸点の調査の結果によつて、入園前にすでにクレオンや鉛筆などの使用にしたらんでいるものとしたしんでいないもの、缺が使えるものと、使えないものなどの状態が判明していると個人個人に適切な指導が出来ることになる。

即ち家庭生活から幼稚園生活への移り変りに対しての入園当初の疲労が出来るだけ少くして、早く幼稚園生活の楽しさが味わわれることにもなる。

ここに一例をとると、描画について、全く経験のなかつたものだけを一団として、はじめて絵をかかせてみると、お友達誰もが同じ状態であるので平な心もちで描画に入ることが出来るが、もしもこの区別をしないで雑然と描画に入ると、描けるものはよいとして描けないものは、描画の第一歩において、劣等感をもつこともあろうし描く興味もそこでくじかれる結果ともなることが考えられる。又缺などの使用についても家庭で今まで使用を禁じられていたものなどが、幼稚園では友達が使っているのを見て、異様な気持ちをもつことも考えられるから、幼稚園で始めて缺を使用するものだけグループを作つてこれに指導者も入つて、缺の使い方に、きけんもなく、面白く使えるものである実際の有様を示して次第に安定した気持ちで缺使用が出来る様に進めたい。

昭和二十八年四月入園したお茶の水附属幼稚園の幼児たちのその実体調査は表の如くである。

この種の調査によつて、地域的環境により、家庭環境によつて年令的

## 夏季保育誌上講習会

画をかきはじめた時期

昭和28年4月調査

	3 才 児		4 才 児	
	男	女	男	女
1 年	1	4	1	
1 年 半	1	1	1	1
2 年	3	5	4	2
2 年 半	6	6	3	2
3 年	6	1	3	10
3 年 半		1	3	4
4 年			5	3
4 年 半				
計	17	18	20	22

はさみを使いはじめた時期

昭和28年4月調査

	3 才 児		4 才 児	
	男	女	男	女
1 年 半		1		
2 年	1	3	1	1
2 年 半	4	2	3	3
3 年	9	9	7	11
3 年 半	1	3	4	4
4 年			4	2
4 年 半				1
はさみを使ったこと がない	2		1	
計	17	18	20	22

## 夏季保育誌上講習会

にその遅速の相違のあらわれることは当然なことである。

以上の一般的の発達の特徴と、個人的の発達の状態との二つの基盤の上に、指導の目標をたてて製作指導の実際にあたる時は製作への真の興味も自ら湧いていくものである。

### 製作への興味

製作への興味について二つのことが考えられる。

その一つは、物をつくる過程を楽しむ興味、これは粘土製作の始期にも、紙製作の始期にも、ともにその作る過程を楽しみ、ものを切る過程を喜ぶのである。この点において製作の指導の初期にはその過程を喜ぶ材料を充分に備えて、その欲求を満足させなくてはならない。

次の一つは、作りおわつたものが、直ちにおもちやとして幼児たちの遊びに役立つものに深い興味もたれるものである。

汽車ごっこ遊びに必要な、おもちゃの品々。お店ごっこ遊びに必要な、おもちゃの品々。

これらのおもちやの製作には、その作り方の巧さよりも、大まかに作られてすぐに役立つものに大きな満足が見られる。

### 創意と工夫

製作への興味次第に深められて来ると次にその指導の上に期待されることは、幼児の製作に対して、その創意と工夫のあらわれである。この創意と工夫に到達する為に、この指導を秩序立てて考えられたとも云える。創意と工夫によつて、幼児の独創的な作品へと誘導を進めるのである。

### 製作の材料の広さ

幼児の製作の材料は出来るだけ広い範圍に求められたい。それは材料によつてそれぞれの特質をもっている。粘土は粘土としての特有の味をもち、紙は紙で又独自の製作の材料味があり、自然物は又自然物としての長所がある。それに対する幼児たちもその好む材料に自ら広い幅をもたせて、いずれの材料に最もその製作の意欲の満足が得られるか男児と女児の間に差があり、年令の上に差があり、さらにその個性の異によつても又差が大きいのである。いずれの材料に興味が多ききつけられるかは

実際にぶつかつてみた上でないとはかりしられない場合が多い。そこで特に好む材料を充分に与えて興味を一段と深めて、創意工夫の芽を育てていくのである。

尙この材料を範圍広く求める点から考えて、新しく作られて来る化学的製品の新しい材料、例えばビニール製や、プラスチック製の玩具の出現と同様に、幼児の製作の材料としてその条件に伴うものがあれば(経済的の面や能力の点、その他の点において)これを材料として取扱うように考えたい。現在のところセラファンテープなどその例で、美しい色、その手ざわりのよさ、安価である点など新しい製作の材料としてとりあげられてよいものの一つである。幼児の能力、時代の進運などに少しの関心もなく、習慣的にくりかえして作られるもの、又その材料、その指導の方法などに創意と工夫のないところに、幼児の製作に創意と工夫を求めるのはあまりに一方的の考えではなからうかと考えたい。

## 夏季保育誌上講習会

# 幼 児 の 精 神 衛 生

松 村 康 平

## 心 の 衛 生

精神衛生という言葉をおきき及びでしようか。

あまり耳にしたことのない人でも、少し考えると、「体の衛生」があるのだから、「心の衛生」もあつてよいはずだと、思ひつくでしよう。

「体の衛生」といえば、体に悪いところがあるのを、治療し、悪いところがなければ、悪くならないように、予防することだと、すぐわかります。これと同じように、「心の衛生」も、心に悪いところがあるのを、治療し、悪いところがなければ、悪くならないように、予防することを、意味しています。

「予防」という言葉は、「防ぐ」という消極的な意味に、とられがちですが、これには病気にかからないように、体を強くするといふ、積極的な意味も、含まれています。同じことが、「心の衛生」についてもいえるのです。

二

## 心 の 医 者

「体の衛生」については、医者に意見をきき、自分でも気をつけていくのが、一般のならわしなので、「心の衛生」についても、もし心の医者がいれば、それに意見をきき、自分でも気をつけていくのが、本すじだと、思われるでしよう。けれど、心の医者が、果して居るでしようか。

これには疑問を抱く人もあると思ひますが、「心の医者」にあたるものは、古くからいました。

昔は、私たちの抱く心の苦しみを、祈禱師や宗教家が、引き受けてくれていたのです。今でも、私たちの間には、こうした人たちに、たよるものがありますが、昔は、心の苦しみや病気が悪魔の仕わざのように、とかく思われていました。それですから、おまじないやら、身代りの人に乗り移つてもらふ手段を、こうじたのです。

この悪魔が、人間のもつて生れた罪（原罪）と、考えられるようになり、この罪をなくすために、宗教家が骨を折りました。

夏季保育誌上講習会

## 夏季保育誌上講習会

けれど、心理学が発達して、人間についての一般的な傾向が、少しずつわかるようになると、この傾向をもたない人、かけた心の人が、苦しみや心の病気に、悩まされるのだと考えられはじめました。また、一部では、とくに優生学者たちが、心の病気は「悪質遺伝」によるのだと説明したものです。精神病医のあるものは普通の人と違う訴えやおかしな振舞い方をする人たちを、「精神錯乱」と呼んで片づけようとなりました。

いずれにしろ、「心の病気」のもとが、なにか神秘的な、悪魔であつたり、悪性のばい菌のようなものと、考えられたりして、それが、外から人の心の内に住み込むのだと、考えられたり、或いは、心の中にもとからあつて、それは、変わらない「運命的なもの」と、考えられがちだったのです。

### 心とからだ

「心の病気」に名まえをつけて、分類したり、苦しみや悩みの「もと」をたずねてこれこれだと、見きわめるのは、必要です

けれど、それによつて、病気に苦しむ人たちが、少しもよくなるまいとしたら、この分類や「もと」をたずねる努力も、ねうち之の乏しいものとなるでしょう。

心理学者のある人たちは、心の問題を研究し、心をゆがませる原因をたずね、ゆがみをなおす道を見つげようと、努力してはいたのです。けれど、残念なことに、心理学者は、からだのことを余り知りませんでしたし、世間でも、心に関係のある病人は多く内科医の意見をきくといつた具合で、心の病気を専門に引き受ける心理学者の育つような、社会的地盤が、かけていました。けれど、一部の心理学者のこうした努力は心理学と医学との結びつきを強め、心とからだの問題を別々に切り離して扱ふことの間違ひをなくし、一つの関係を考えにいたれた治療の道をひらくのに、役立ちました。

### 三

### 心の健康

病気になつた心の治療や、病気になることとの予防を考えて、世間にひろめる力を

つたのは、精神医学界でした。

健康といへば、体のことしか考えない時代は、過ぎ去つてしまつたのです。

私たちは、心の持ち方をかえ、しこりをなくすために、適当な「転換療法」「転地療養」やリクリエーションをしましょう。心の眼が曇つたり、頭のゆきがにぶらぬように、掃除や洗じようも、必要でしょう。

心の健康は、私たちの力で、維持することも、獲得することもできるという考えがゆきわたつてきたのです。それが出来ないのは、多くの場合、私たちが、人の心の一般的な動き方を知らず、それを操る仕方をまだ身につけていないからだだと、考えられています。

私たちの、不健康をまねく原因には、個人の力でどうにもならない社会的な条件も、働いているでしょう。そのため、「精神衛生」の運動は、個人の力を増進するばかりでなく、社会の改善をも、目的としています。精神衛生運動が、世界的なものとなつた「きつかけ」は、実に、一人の精神病者（とみなされた人）の、社

## 夏季保育誌上講習会

## 夏季保育誌上講習会

会への義憤であつたとすら、いえるのです。

### 精神衛生運動のはじめ

この人は、クリツフォード・ウィーアス (CLIFFORD W. BEERS) といひます。

ウィーアスは「わが魂にあうまで」 (A Mind That Found Itself)

という本の中で、精神病院における自分の体験と、見聞したことから、精神病者の取扱いが、いかにひどいものであつたかを、書き綴つていひます。

この本は、邦訳も出ていますが (加藤・前田訳、羽田書店)

「今までにあらわれた人生記録の中でもこの物語に書かれている事実ほどに、よく人間性を語つている書物は、ほかにあるまい。これは一つの自叙伝であるが、唯それだけではない。私は、私の生涯を語るにあつて、二十五才から二十七才までの私を支配したもう一人の自分を、語らねばならなかつた。その間の私は、それまでの私ともその後の私とも、異なつていた。私の自叙伝の中のこの伝記的な部分は、精神的な

内乱の歴史と呼んでよいかも知れない。

私が、今までの生活を語るのには、ただ本を書くためではない。私が語るのには、それが明かに義務だと思われるからである。九死に一生を得、不治としか思われぬ病から、一見奇蹟的に、健康となつた事實は、人をして、私の生命が救われたのは何のためか、と、問わしめるに充分である。私は自分にこう問うた。この書物は、その答の一部なのである。」

## 四

### 生涯を左右する事件

それはウィーアスが、大学生であつた夏の出来事でした。

事件というのは、一人の兄の癡病です。病氣は、てんかんでした。

兄は、病氣にとりつかれるまで、まったく健康の持主だつたのです。父母の何れの側にも、これと類似の病氣を想像させるものはなく、災難は、晴天のへきれきのように、やつてきました。その当時とて、治療法という治療法もなく、試みた何れもが、無効でした。そうして、六年の後、兄が死

亡しました。

その最初の発作のとき、そばにいて一番面倒をみたのが、ウィーアスでした。兄の発作は、最初のころ、夜中にしか起りませんでした。ウィーアスは、白昼、公衆の前で起りはしないかと心配し、これが彼の神経をおびやかしめました。そして、

今まで健康であつた一人の兄が、突然てんかんに襲われることがあるとすれば、自分も同様のことに会うかも知れない。これを、どうして、防げるだらうか、という心配が、間もなく彼の心を占領しました。そして、氣持がいららなければするほど、彼自身の破壊も時間の問題であるように、信じられたのです。この取越苦勞から、今にも発作の起りそうになつたことは、幾千回あつたか、わからぬほどでした。しかし、その恐怖は、ウィーアスの一生のあいだ。一度も実現しなかつたのです。

まさに、取越苦勞にしか過ぎませんでした。明日のことを思いわずらうな、一日の苦勞は一日にて足れりという言葉が、思いおこされます。

## 夏季保育誌上講習会

病氣になつた心

ピアスが、大学を卒業したころは、神経衰弱がこうじており、就職して間もなく、彼は、自殺をくわだてたのです。けれど、それについて彼は、

自殺のことを、私は、真剣に考えていなかつた。それは、滅多におこりそうもない出来事にすら用意を怠らない私が、自殺の用意をしなかつた事実が、示している、と、述べ、

自分で自分の能力を制御し得たのなら、熟慮した上の行動を認めねばならないが、敵密にいつて、自分のしたことを、自殺企圖と呼ぶのは、決して正しくない。何故なら、自分を見失つている者にどうして自分を殺すことができようかと、語つています。これは、病氣になつた心に対する周囲の人の無理解を、鋭くつく言葉ではないでしょう。彼自身、自殺企圖のあと、大学の名をはずかしめる者であるとか、ほかに、思いもよらぬ罪をきせられて、ひどく苦しんだのでした。

こうして、自然、彼は、周囲の者皆に、

疑惑の眼をむけ、骨折がいてからも、頭の方が快くならず、私立のある療養所へ、新しく移されることになつたのです。

悲惨な生活

療養所での生活は、悲惨なものでした。無慈悲な取扱いに苦しめられたばかりでなく、公私立病院の中で、暴行にさらされ、侮辱に黙従せしめられている多くの患者たちのことを思つて、彼は、養憤のやり場に困つたほどでした。著書には、幾万の入院患者のために抗議するのは、今からでも遅くないとして、当時の有様を、如実に語っています。

五

彼が、この本のおわりに書き綴つたことを、要約してみましよう。

幼年時代の重要なこと

それは、事情に通じた精神医学者の言葉として、述べられているのですが、青年期の精神異常の、多くが、既に判明している知識なり実際的方法なりを、主として幼年時代に応用することにより、防止できるといふことです。

組織的な運動の必要

彼は、一九〇八年に、彼をいれて僅か十数名の人たちによつて創立された精神衛生協会が、委員会、聯盟、組合などを通して広く全国的に、また、世界的に發展する必細を力説し、それが実現されていくのを喜んでいますが、最後に、彼が、それにもまして重要だといふことを述べています。

心の友だち

彼の言葉を、引用しましょう。

「どのような改革や治療や予防よりも、もつと根本的なものは、精神病者に対する人々の気持の変化です。彼等はまた、人間性を失つていません。彼等は愛し、憎み、また諧ぎやくの気持をも、持つています。最も重症のものでさえ、親切を感じるのが普通です。彼等の感謝の情が、正常の男女より強い場合も、少くありません。精神病者のために勿いたり、彼等の傍で仕事をしたことのある人は誰でも、このことを適切な例をあげて、証明することができます。通りすがりの人も、精神病者に、しばしば、感謝の念のあることを、見い



だすでしょう。」

「ある婦人の患者でした。早春のある日のこと。散歩からかえると、医者のもとへきて、小児のような無邪気さで、その年になり初めて満開の花を見いだした喜びを、告げました。医者は、その花を、つみましかと、たずねました。それに対し

て、患者は、つもうと思つて、かがみました。でも、私は、それを見たときの自分の嬉しかつた気持を、考えたのです。そしてそのままにおきました。また誰かが見つけて、私と同じように、あの美しさを樂しめるようにと思つて、と、答えました。」

長い一生を精神病者のためにささげ、初めは医員として、後には公私様々の病院長として働いた人の言葉に、「結局、精神病者が一番必要なのは、友である」という言葉がありますが、これは、私たちの胸を打つてでしょう。

六

精神衛生の動き

「精神衛生」は、はじめ、正常なものに

ついてより、異常なものについて、語られることが多かつたのです。発言できたのも精神医学者たちでした。けれど、近頃では正常とみられているものの中にも、問題をもつけ、それを解決することによつて、より幸福な生活に導くことも、精神衛生の仕事と、されてきました。そして心理学者たち、ことに、問題を発見し、治療を目的とする臨床心理学にたずさわる人たちが、精神衛生の仕事に、力をそそいでいます。

幼児の精神衛生

ここでは、精神衛生の動きが主になり、幼児の精神衛生について述べることは、少なくなつてしまいましたが、

幼児の場合には、精神衛生の仕事が、教育の仕事と、ほとんど同じ内容をもつてきます。という意味は、教育では、「理想」に近づける努力がなされるわけですが、幼児の場合ですと、「理想像」に積極的に近づける努力が重荷となり、反つて思わぬ方向へそれさせるおそれがあります。それで幼児の生活をまわりからととのえ、軌道からはずれぬように、かじをとり、はずれたものを軌道にのせることが多くなるのです

が、これは、精神衛生の仕事と、ほとんど

かわりありません。知的な教育より、感情の調整が、幼児の教育の関心事であるとするれば、精神衛生が、幼児の教育にとつていかに大切であるか、理解されることでしょう。

(お茶の水女子大助教授・学習院大講師)

☆

☆

☆

☆

## 夏の保育医学

平井信義

(一)

夏という季節は、子供たちにとつては大変重要な季節です。これ迄丈夫だった子供は、更に丈夫にすることが出来ますし、この冬に風邪ばかり引いていた、という子供も、夏を利用して丈夫にすることが出来ます。

一方、暑さと湿度とは子供の体を弱め、ばい菌の繁殖を助けますので、子供の病気がふえる時でもあります。殊に消化器の病気、即ち下痢、腸炎や赤痢(疫痢)にかかり易くなりますし、日本脳炎という恐ろしい病気も流行します。従つて、こうした病気から子供たちを守らなくてはなりません。

ところが、之らに対する対策を、真剣に考えている親は案外少ないものです。その結果、無駄に夏を過し、或いは病気をさせてしまつて却つて子供を弱くしてしまつている親が相当います。非常に残念なことといえます。

そこで子供の教育、保育にたずさわつておられる先生方に、「夏をよく過させるた

めに、親たちに向つてよい忠言をして頂きたいと思ひます。それには先ず、夏即ち七八ヶ月の日課と行事との計画をお母さんに樹てさせてはいかががでしよう。それを検討しながら、子供たちにも「よい子の夏の過ごし方」について、お話をきかせてはいかがでしよう。

家庭ですつと夏を過す子供には、早起・早寝は是非励行させたいものです。早寝をさせるためには早起きが大切ですから、何か朝のお手伝いをきめるとよいと思ひます。小鳥や鶏・草花の世話でもよく、お庭や門の前のお掃除でもよいでしよう。大体きまつた時間に起きる——その自立をつけるためには、日ごまし時計を貸し与えるのも一つの方法であることを教えます。

日課表を時計の様に書いてくるよう。お母さんに云うのもよいと思ひます。その際、お昼寝の時間を設けることを忘れぬよう。

海や山にいく計画のある子供にも生活が乱れぬよう、乱れた生活は、やがて秋から冬になつて病気をする源となることを教えます。家を

## 夏季保育誌上講習会

はなれると、附添つてゐる母親までが気を許して、夜更しや朝寝坊のくせを身につけてしまいますから、その点ユーモアを混えて注意して頂きたいと思ひます。又、避暑地の衛生状況をよく調べておくことは当然で昨年赤痢の流行地へわざわざ出かけることになつた子供たちもありました。

海や山へ、短時日子供を連れていくことは感心しません。殊に日帰りの無理な行程には反対したいと思います。毎年、帰つて来た晩から熱を出した、脳炎にかかつたという例が、沢山あります。海や山の効果は三週間位の滞在の後にはじめて現れるものであることを、お母さん方に知らせて頂きたいと思ひます。日帰りの電車や汽車の中で、一日で日焼して熱をもつた顔で母子ともども折重なつて寝ている姿は、むしろ惨めにさえ感じます。その位ならば私は蟬取りの籠でも買つてやります。風呂屋へ回数多く連れていきます。

どうしても日帰りで連れていきたいのなら、海に在る時間を出来るだけ少くして

無駄なようでも早目に引上げるよう。折角海にいつたのだからというわけで、一刻も長いようという根性は、子供のためには捨てていただきたいことを親たちに話しておきましょう。

一、二日の行程しか組めないのなら、私ならばむしろ中止します。そして家で思い切り遊ばせます。ランニングシャツをきせて、皮ふの露出面を充分に日に焼いておきましょう。蠅取りでも、何でも戸外で充分遊ばせることに画意したいものと思ひます。

乾布まさつの計画も意義深いことでしよう。特にこの冬は風邪引きの多かつた子供には来るべき冬に備えて、夏から準備をしておいて欲しいと思ひます。その他に、手をよく洗うこと帽子をかぶること、などの注意もしておいて欲しいことです。

兎に角、夏の計画、殊に保健上の計画を立てさせて、それについて検討を加えることは是非実行していただきたいことと願つて止みません。

## (二)

海や山の積極的な効果は、紫外線と新鮮な空気にあります。たしかに山や海で夏をすごした子供は、その後病気が少ない。従つてどの子も連れていきたいと思ひます。

しかし、短時日の行程で失敗した例は少くありません。土地の様子に研究が足りなくて、行くと間もなく疫病で子供をなくしたという例も知つています。従つて日取りや行く先の土地の検討は充分にして頂きたいことです。

残つた子供ですが、親たちから保育をしてくれとせがまれて、夏季保育の計画をなさる先生方もあると思ひます。本当に御苦労様ですが、暮しのゆたかでない家庭の子供が多い日本のことですから、我が国では夏の保育も考へることは適切なことと申せましょう。保育所では夏休みはないのです。

夏季保育に當つて、大切な問題は健康管理と増進でありましょう。健康増進としては、繰返しになります。紫外線に當て、うすぎで皮ふの鍛錬をすることです。充分に日焼けさせること、それが皮ふにビタミン

## 夏季保育誌上講習会

## 夏季保育誌上講習会

Dを作ることにになり、同時に皮ふの鍛錬にもなるのです。従つて戸外保育を主に考えていただきたいと思ひます。お絵かきやお話も、緑蔭を利用していただきます。

戸外保育の際に注意したいことは日射病の予防です。必ず帽子をかぶること。之を子供たちに守らせましよう。子供は帽子をうるさがり、放り出します。夏鬼ごっこなどして、顔を真赤にします。帰宅してから熱を出した子供もありませんから、帽子をかぶることはお約束しましょう。

水分の補給も大切なことです。湯沸しをいくつか必ず備えておき、湯ざましがいつでも飲めるように。殊に走り廻つて汗を出したあとは、皆で代り番こに飲ませます。同時に勝手なところで、きたない手に水をしゃくつて飲むようなことはさせないで頂きたいことです。

### (三)

夏季保育の必要性は、災害予防にもなると思ひます。こ存じでしようが、我が国

子供、殊に四才児が何で一番多く死ぬかと申しますと、災害による死亡であり、その中の大きなものが水死即ち溺れて死ぬこととであります。溺死は当然親の注意不行届きから来るものですが、我が国の親たちは非常に忙しい。従つて十分な監督がしにくいというのが現状であります。

幼稚園に入園を許可する際に、「どうして幼稚園に入りたいのですか」ときく先生方も多いと思ひます。その際、幼稚園教育の目的に添つて、正しく答える親が多い、即ち「子供の心身をすこやかにのばすため」と答えることでしようが、本当は「家においておくとうるさいから」であり、「幼稚園で面倒をみてもらいたい」からという親が多いのであります。勿論こうした親の希望におもねる必要はないが、むしろ之が社会的な要求であり、この要求が満たされていないために、子供が災害に会つてゐる、ということも考え合せていただきたいのであります。

話が横道へそれましたが、今年こそは先生方の手で、溺死を予防したい。そのため一人て川にいつてはいけな、用水池の

周囲で遊んではいけない、ということも、お話を上手に作つてしていただきたいと願う次第であります。

溺死は全く悲惨であります。親としてもあきらめきれないことであります。こうした話を耳にしない様になりたいものから心から念願いたします。

### (四)

夏休みの間に、「えきり」でなくなつたという話を時々耳にいたしますし、私も私共の幼稚園に来ていた可愛い一人娘を「えきり」でなくしたときの親たちの私共の光景を今でも忘れません。全く一日半の出来ごと、避暑先から東京へ連れ帰る暇もなく、私も医者として手の施し様がなかつたのです。午后からばんばんが痛いといつた、熱を測つたら四〇度ある、間もなくけいれんが始つた、下痢が始つた、薬の乏しい田舎のことで、土地の医者も思案をしてゐる中に、次第に心臓が弱つて、翌日の夕方には死んでしまつたのでした。

我が国では、他の伝染病は終戦後

## 夏季保育誌上講習会

## 夏季保育誌上講習会

減少してきているのに、赤痢、疫痢だけはこの数年上昇の一路を辿っているのです。恐らく今年も大へん流行するのではないかと案じられます。

この病気は、必ず口から入つて消化器、特に腸に変化を起させるのですから、口に入るもの即ち飲食物を第一に、子供は不潔なものを口にすることを許さず、そのくせを第二に、注意をすればよいのです。

飲食物にどうして赤痢菌が入り込むか、之の第一は飲食物を扱う人の「手」第二は食べる際に持つ「手」第三に蠅の附着などでありませう。

手の中で最も恐ろしいのは、保菌者の手でありませう。同じ様に赤痢菌を飲み込んで、発病する人と発病しない人がありませう。発病しない人の中で、全く健康な人と多少の下痢程度で終る人がありますが、多少の下痢程度で終る人が恐ろしい、自分は極く軽い赤痢とは知らない、それでいて赤痢菌は排出しているのです。その人がよく手を洗わないで飲食物をいじると、その中

に菌が混入する恐れがあるのです。それを飲食すると大変なことになるので、お母さんがそうであつた為に一家が全滅したという例があります。それ故、わずかな下痢も油断が出来ませんし、それよりもなお、「手」をよく洗うこと、石鹼でこしこし洗うことが大切であります。

子供たちには、手をこしこし洗う習慣は夏の前に改めて注意して欲しいことです。水が無駄になるほど使うことも許しましやう。石鹼を無駄にしても叱るのはやめましょう。兎に角習慣をつけて欲しいのです、それと同時に、お母さんにもその習慣をつけるよう、子供を通して家庭への教育を推進していただきたいとお願ひする次第です。更には、お母さんを通じて、家中で「手」をこしこし洗うことにまで到れば、幼児の健康教育万才といえませう。

こんな注意をしても、赤痢になる子供があるのはどうしてでしょう。それは家庭以外で調理、製造された食食物、飲み物に対する注意が足りなかつたためです。わずかなお金を惜しんで名のない店、不潔な店で買つたりすると、その災いを負うこ

とになりますから、必ず信用のあるお店から買うようにしましょう。安もの買ひの銭失ひは、ここでは深刻です。赤痢などにかかると二万や二万のお金は飛んで消えます。トンカツが二円安い三円安いどころではありませぬ。

水ものは出来るだけ与えないようにしたいものです。毎年新聞でアイスキャンデーの中のばい菌について報告されています。行商のものなどは、下水の水と同じ位のばい菌がいた例が報告されたことがあります。殆ど栄養にならない、おなかを冷やす——どうみても得なお菓子とはいえませぬ。

火を通してたべる。調理して間もなくたべる、皮をむいてたべる、手を洗つてたべる、とにかく口に入るまでにばい菌のつく余裕を与えなければ、絶対に赤痢疫痢にはかからないのです。こうした話は、夏になる前に園長さんから母親へ是非話をしておいてもらいたいと思ひます。

今年はどうか、去年よりも赤痢が少いように、少くとも幼稚園、保育

## 夏季保育誌上講習会

## 夏季保育誌上講習会

所に通つてゐる子供の中からは、この不名誉な病氣にかかるものがない様に、と祈つて止みません。

### (五)

汗をかき易い、ばい菌が繁殖し易い、虫などに刺され易い……などの原因が重つて、皮ふの化膿性の病氣が、夏は非常に多いものです、一日一回は必ず入浴又は行水をつかわせて、汗と埃とをすつかり落して、床に就かせるように指導しましょう。

虫に刺されたところを、子供はさかんにかきます。従つてその毒を消す薬、例えばアンモニアなどは小罐に入れて、子供でも脱脂綿につけて自分で刺し口にあてがえるように指導しておく、腫れやかゆみをすい分防ぐことが出来ます。又、爪がのびているとかいた際の皮ふの傾は深し、爪にあるばい菌をすり込むことになりすから特に注意して爪は切つておくようにしたいと思ひます。

殊に虫に負け易い體質の子供は、夏の清潔には特に注意して欲しいことです蚊は日

本脳炎の媒介者です。日本脳炎にかかつたあとは、智慧がおくれたり、いろいろ具合の悪い点をのこしますから、蚊は目の敵にしてもよいと思ひます。夏には蚊が出ることを普通に思い、或いは出ないと淋しいなどという詩人がいるのは困りものですが、皆で蚊を退治する方法を考えましょう。蚊をなくした村や町のお話など、先生方が注意して、お母さん方に話しておやりになることは意味のあることと思ひます。

### (六)

夏にも風邪が流行することがあります。それはしばしば「ねびえ」という様な形、即ち下痢が主な徴候で子供をいためつけることがあります。風邪は主に伝染病ですから、家の中で誰かが始めると、なかなか防禦が困難ですが、冷たいものを沢山のんだり蒲団をはいで寝たり、水の中に長くつかつていたりすると、それが病氣を誘発しますから、注意が大切です。

おなかの病氣は、それが赤痢か、大腸カタルか或いは寝冷えか、医者でもなかなか診断のむずかしいことがありますから、自

分勝手な治療法を行わずに、必ず医者に診てもらふことをおすすめていたします。

### (七)

今年の夏も、日本の子供たちが、一人も病氣や災害のために欠けないよう、それのみか、冬を目ざして健康の貯えを充分にするよう、私共幼児の保育にたずさわつてゐる者がいろいろな方面から努力をしていきたいと思ひます。これが幼児の教育を更に振興し、よい日本を作る一助となることを確信しております。

☆

☆

☆

夏季保育誌上講習会

## 幼稚園最近のすう勢

玉 越 三 朗

社会情勢が安定するにしたがつて、家庭生活も着ることや食うことのみを追われた毎日から解放され、一応の落着きをみせてきた。親たちは、ようやく子どもの教育について関心を持つようになつてきた。また一般社会においても、子どもたちを悪い環境から守ろうとする努力がなされるようになったとともに、子どもに対する教育の重要性を強調しはじめた。これにともなつて、幼児に対する教育指導の必要性も最近とみに一般社会の人々に認識されてきて、新聞やラジオにとりあげられる機会が多くなつた。

昭和二十三、四年頃は、幼児を持つ両親から「子どもを幼稚園へ入れた方がよいか入れない方がよいか迷っているのですが」という相談をよく受けたものでした。が、最近はこの子どもを、どうしても入園させたかつたが入れなかつた。子どもの将来を思うと、親の責任としてどうしても入園させたい。ことに隣りの子どもがうれしそうに登園していく姿を、垣根越しにうらやましそうに見ている姿を見ると、親としてじつとしていられない気持です。なんとかなら

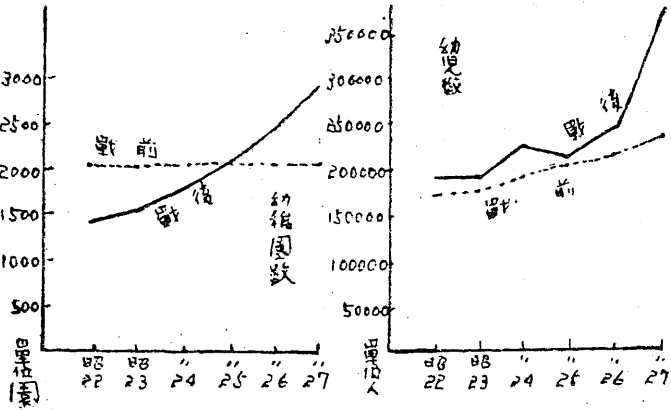
ないでしようか。「学校教育である幼稚園が、あんな思いつきの指導をしていてよいのでしょうか。幼稚園の教育内容はいまだうなつていのでしょうか。」町では金がないといつて幼稚園をつくらうとしないから、われわれでつくらうと思うのだが、そのつくり方を教えてもらいたい。」などという相談が非常に多くなつてきた。

これらの相談の内容からも、最近の幼稚園教育のすう勢はうかがえると思うが、次に少しくわしくその現状を述べてみよう。

### 一

子どもを持つ親たちが幼児教育の必要性を認識してきたことは、最近幼稚園に入園を希望する幼児が急激に増加してきたこととわかる。昭和二十七年四月、公立幼稚園七二四園について調査した結果によると、都市も農村もともに入園を希望する幼児が非常に多くなつてきている。しかし施設の増加がこれにともなわないので、どうしても入園できない愛目にあつていいる子どもが五三・五%もいる。この入園で

きなかつた子どもの親たちの入園を希望する声はかなり切実なようである。  
一方幼稚園ではこの要望にこたえて、現在ある施設に最大限まで収容するとか、二



(第一表) 戦前戦後における幼稚園数と幼児数の増加の割合

保部育を実施するとか活用できるところを早造するとかして収容している。さらに実態調査の結果は、なお入園できなかつた幼児のために、日曜幼稚園とか一日幼稚園とかを開設して少しでも指導しようとしている幼稚園が七二四園中の一〇%の七四園もあることを知らせている。  
第一表は昭和十三年から昭和十七年までと昭和二十二年から昭和二十七年までの戦前と戦後の各六年間の施設数と幼児数との増加の状態を示したものである。昭和二十七年は施設数の増加にくらべて幼児数の増加が非常に著しいことがわかる。しかも志望者の四六・五%入り入園できなかつたのである。(昭和二十八年はこの傾向がさらに著しく、先日もある新聞に「たりなすぎの幼稚園、競争率大学なみ」という見出しでこの状況を伝えていた。)

(第二表)

都道府県	0	10%	20%	30%	40%	50%	60%	総数(希望者数)	埋込割合
北海道								6,476	5.5%
東北								6,057	
関東								7,442	
中部								6,333	
近畿								6,777	
中国								3,326	
四国								3,222	
九州								7,777	
平均								9,433	
全国平均								13,866	14.5%
地方平均								16,314	
都市平均								25,111	
農村平均								15,116	
五院								5,557	17.8%
中部								23,611	
近畿								30,559	
中国								10,220	14.4%
四国								10,522	
九州								30,009	
平均								16,122	
全国平均								18,229	
地方平均								23,811	
都市平均								38,400	
農村平均								17,008	29.5%
中国								29,655	
四国								21,066	
九州								12,322	
平均								31,211	17.5%
全国平均								30,755	
地方平均								20,511	
都市平均								10,888	27.0%
農村平均								60,077	
中国								36,008	
四国								7,788	
九州								3,488	
平均								6,855	10.6%
全国平均								6,577	
地方平均								11,722	
都市平均								10,111	
農村平均								2,633	
中国								2,788	
四国								5,511	
九州								16,855	

この現状に対して文部省は、昭和二十六年二月二十日、幼稚園に入園を希望する幼児の取扱について、大要次のような通達を出してその善処方を各都道府県に依頼した。  
(1) 幼稚園に入園する幼児はすべて入園させたいが、現状では施設の不足等からとうていでききい状態である。したがって、入園者をその希望

夏季保育誌上講習会



(第三表)

(昭和27.5.1現在)

	幼稚園教	教員数	幼児数
国立	52	139	3,317
公立	1,083	4,894	154,534
私立	1,720	9,125	212,402
計	2,855	14,158	370,253

この結果、各幼稚園とも非常に多

## 夏季保育誌上講習会

者の中から当然せんこうすること  
なろう。が、その場合各幼稚園にも  
種々の事情はあろうが、一人でも多  
くの幼児に幼稚園教育を受けさせる  
という立場から、当分の間一年保育  
の幼児を優先的に入園させ、二、三  
年保育の幼児は、施設に余裕がある  
場合入園させてほしい。

(2) 入園を希望する幼児をすべて入園させるには、施設を新設増加することが最も望ましいことである。しかし、現在のよう

経済状態では困難であると思われるので、さしあたり各地方の実情に

応じて二部保育をするとか、小学校等の空施設を利用す

るとかして、入園を希望する幼児を

できるだけ多く入園させてほしい。

く収容したが、施設数の不足から収容した幼児は、昭和二十七年度に小学校一学年に入学した児童中、幼稚園を修了したものをみると、僅かに全国平均一七％にすぎない。(等二表参照)

なお最近いわゆる無認可幼稚園や、子ども会という名のもも非常に多くなつてきている。また幼稚教育と小学校教育とを結びつけて、小学校入学一年前の幼児を、一週間に一回、あるいは一月に一回小学校に集めて指導し、小学校教育の効果をあげようとする移行学級とか、幼稚園とかと呼ばれるものが、最近新潟県、長野県その他で行われているようであるが、これは小学校教育の手段としての指導で、しんの幼児教育とはいいがたい。

参考までに現在の幼稚園数、幼児数、教員数を示すと第三表のとおりである。

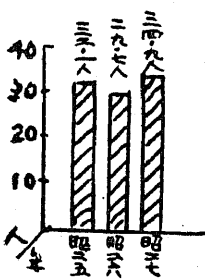
## 二

幼稚園の教育内容や指導法は、まだじゅうぶん研究しつくされていらない。最近これに対する研究がかなり活潑に行なわれてきた。地方ごとに研究協議会を開催したり、

一人または共同で研究して、その結果をど

んどん発表したりするようになった。最近までは、幼稚園関係で文部省の科学奨励費を受ける者がなかつたが、昭和二十五年からは幼稚園関係者でその奨励費を受ける者もでてきた。さらに実家と学者、指導主事等と共同して研究するのが多くなつた。東京都、静岡県、三重県、奈良県、岡山県、徳島県、大阪市、名古屋市等は、着々その効果をあげているようである。また県によつては毎年研究集録を作つて、その研究結果を発表するようになった。

(第四表)



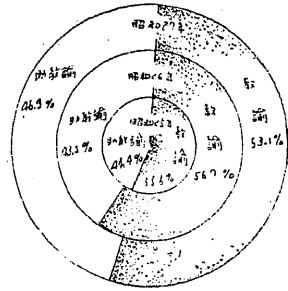
研究を近  
く設  
置す  
ると  
いう  
こと

## 夏季保育誌上講習会

である。

文部省でもこれらに対して、教育課程の基準を示す「幼稚園教育要領」を、また指導上の参考として「幼稚園のための指導書」を経験内容の各系列ごとに編集しようとしている。(音楽リズム篇は刊行済み)

昭和二十六年三月三日に幼児指導要録の様式の基準を定めたり、小学校学習指導要領各各篇に幼稚園における具体的指導目標を示したりして、幼稚園における指導目標を明らかにしようとする努力している。



(第五表) 教員の待遇 勤務年数別標準額及び実支給額

教員待遇の状況を本庁についてその辞令面の額と実支給の額とからみると下表のとおりとなる。

区	分		勤務年数3年	5年	10年
	人員		157人	86人	28人
高等学校 修了者 (臨時免許 者を含む)	総額	標準額	896,150円	592,700円	268,300円
		実支給額	828,180円	535,850円	203,600円
	1人当り 平均額	標準額	5,708円	6,891円	9,582円
		実支給額	5,275円	6,230円	7,271円
		標準額に対する 実支給額の不足額	- 423円	- 661円	- 2,811円
短期大学 1年修了者 (教諭仮免 状を含む)	総額	標準額	224,650円	258,500円	255,200円
		実支給額	221,950円	229,850円	207,150円
	1人当り 平均額	標準額	7,020円	8,078円	12,760円
		実支給額	6,935円	7,182円	10,858円
		標準額に対する 実支給額の不足額	- 85円	- 896円	- 2,402円
短期大学 修了者 (教諭2級 免許状を含む)	総額	標準額	86,900円	58,250円	73,250円
		実支給額	76,150円	53,900円	63,250円
	1人当り 平均額	標準額	7,241円	8,321円	12,208円
		実支給額	6,595円	7,700円	10,541円
		標準額に対する 実支給額の不足額	- 646円	- 621円	- 1,667円
小計	総額	標準額	1,207,700円	909,450円	596,750円
		実支給額	1,129,280円	819,600円	474,000円
	1人当り 平均額	標準額	6,008円	7,276円	11,050円
		実支給額	5,618円	6,556円	8,777円
		標準額に対する 実支給額の不足額	- 390円	- 720円	- 2,273円
総計	総額	標準額	380人		
		実支給額	2,713,900円		
	1人当り 平均額	標準額	2,422,880円		
		実支給額	7,142円		
		標準額に対する 実支給額の不足額	6,376円		
			- 766円		

※ 標準額は辞令面の額、実支給額は実際支給を受けている額である。勤務年数を3年、5年、10年に限って調査したので、該当年限の者だけをあげた。

## 夏季保育誌上講習会

る。なお、教育内容の実験研究を文部省においても実際行うため、東京学芸大学附属幼稚園を実験幼稚園に指定した。

### 三

幼稚園の増加と教育内容の研究が盛んになるにしたがつて、教員の量と質が問題になつてくる。昭和二十五年から昭和二十七年までの教員(教諭助教諭)一人当りの幼児数と、教諭・助教諭の割合は第四表のとおりである。この表でもわかるように昭和二十六年度によく教員一人当りの幼児数も助教諭の割合もよくなつたが二十七年では逆戻りをしている。しかも今年は約一、二〇〇人の教員を新たに必要とするのに、教員養成は国立では東京学芸大学、お茶の水大学、奈良女子大学に正規の課程があるほか、千葉大学、愛知学芸大学等九大学が小学校教員を第一志望とし、副専攻として幼稚園教員養成をしているのみであり、私立では東洋英和女子短期大学ほか一〇大学、文部大臣指定の一年の養成機関が一六あるだけである。その修

了者はあわせて主専攻約八〇〇人、副専攻約三〇〇人である。このうち副専攻の者は殆んど小学校に勤務するから、約八〇〇人が就職するとしか考えられない。すると四〇〇人からの助教諭をまた採用しなければならぬから、ますます助教諭が多くなる。

教員の研修は、昭和二十五年から小学校教員研究集会に加つて小学校幼稚園研究集会として、国、都道府県、大学が一体となつて教員の資質向上をめぐる各地で実施するようになった。これにともなつて各地でも地方ごとの研究会が実施されるようになり、現場の問題で解決を必要とすることが種々協議されるようになった。さらに教育職員免許法にもづく認定講習も各都道府県において実施されるようになった。この両者をあわせて教員研修のために有効に活用し効果をあげている県に千葉県神奈川県等がある。

教員の待遇はいぜんとして低く、昭和二十七年四月に調査した公立幼稚園教諭の実態は第五表のとおりである。ことに公立幼稚園は、辞令面の額と実際支給の額とに相違があることも明らかとなつた。さらに幼

稚園教諭は、勤務年数が多くなければなるほどその待遇が低くなつていくことも明らかとなつた。

### 四

施設設備については、戦後戦災復旧もちと進まず、またそれらについての研究もなされておらず殆んど放任の形となつていた。幼児数の増加と幼稚園の増設が叫ばれるようになってようやく施設設備に対する研究の必要を痛切に感じてきて、新設するときはどんなふうに住てたらよいか、改築や増築をする場合どのようにしたら最もよいか等が研究され始めた。文部省においてもこの技術的な指導にのりだすとともに、幼稚園教育に必要な施設設備の基準を定める必要を感じ、昭和二十七年五月二十一日「幼稚園基準」を定めてその水準維持と向上とを図ることにした。これとともに幼稚園教育の目的をよりよく達成するためには、どうしてもこのような施設設備が必要であるというサンプルを實際に造つてみる必要がある(35頁に続く)

## 夏季保育誌上講習会

講 習 會 豫 告

日本幼稚園  
協会主催  
ゆうぎ講習會

幼児体操とゆうぎ  
お茶の水女子大学助教 戸倉ハル先生

期日 昭和二十八年七月二十一日—二十五日 (午後一時—四時)  
会場 お茶の水女子大学体育館

【注意】七月二十一日—二十五日の午前には、附屬幼稚園に於て、児童心理(一単位)  
松村康平先生の認定講習會がございます。

お茶の水  
女子大学主催  
幼稚園教員免許法認定講習會

期日 昭和二十八年六月下旬から七月下旬まで  
会場 お茶の水女子大学附屬幼稚園  
科目・単位・講師

一般教育(社会)	憲法	一単位	お茶の水女子大学助教	井上茂氏
教職科目	児童心理	一単位	お茶の水女子大学助教	松村康平氏
専門科目	保育内容(絵画製作)	一単位	お茶の水女子大学教授	及川ふみ氏
専門科目	音 楽(音楽理論)	一単位	お茶の水女子大学教授	蘭田誠一氏
			お茶の水女子大学講師	柴田南雄氏

☆右の両講習會は今夏開催予定。詳細は郵券を添えてお問合せ下さい。  
昭和二十八年五月  
お茶の水女子大学教育学部附屬幼稚園

講習會 係 り  
(東京都文京区大塚町三五)

盛大に行われた

# キンダーブツクまつり

フレールベル館

振付舞踊 ↓



新緑かおる五月、子供の日も間近い  
 三日、弊社では、神田共立講堂においで、幼稚園、保育所の小さいおともだち、先生方、お母さま々々をお招きして「キンダーブツクまつり」を催しました  
 非常な好天に恵まれ、小さなお客様、先生、お母様と多くの方々の御参会を得盛大なおまつりを催すことの出来ましたことを深く感謝申上げる次第です  
 この日、木馬座によるギニョール人

→ ↓  
 間隔安ク  
 愛西の  
 倉子表  
 橋さ翁  
 三のキ  
 摺のキ  
 押メン  
 ツーッ

形劇「赤ずきんさん」を初めNRK歌のおばさん安西愛子さんの独唱、キンダーブツクの歌の発表があり、その他、振付舞踊（則武、翠川、賀来等各舞踊研究所児童の舞踊）幻燈（シンデ



レラ姫）映画（極彩色漫画）等々多くの催物に御集り下さった方々の大喜びの中に、このおまつりを終らすことが出来ました。  
 今後も願々に、大阪、名古屋、四国、九州、北海道と各地で同様のお祭りを催し、全国各地の可愛らしい愛読者方をお招きしたいと思っております。

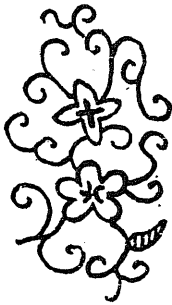


# 生理慾望と教育

—(4)—

## 排泄と教育

加藤常吉



先ず、第一に考えたい点は、本項で取り上げたい「排泄」とは慾望のかたちでながめるといふ点である。このながめかたは、排泄を単に生理機能の現象にとどめるものではないし、また人間社会の生活現象にとどめようとするものでもないといふことである。それは明らかに、人間と一個の有機体としてながめ、この有機体のうちに意識される排泄が、生活面でどんな風に人格構成に影響するかをとらえようとするものである。そしてそこには、正しく教育価値を見出すことができるというわけである。本稿で、はこんでゆこうとする。論旨のねらいは、そこにあるのである。

### 一、排泄の生理的意義

生理面からながめられる排泄には、大体三種をあげることができる。すなわち、排便、排尿、発汗である。このうち第三の発汗は、排泄する物質が、第二の排尿と非帯によく似ているもの

であるが、生理機能の活動からいうと非常なちがひのあるものであり、且つ生理慾望としてとり上げるのには、すこし不適當であるので、本稿ではこれをはぶく。

**排便** 排便の生理的特ちよりは、これが消化器系統に属すことは周知の通りである。前稿の飢えの慾望の箇所ですでに述べたところであるが、食物が小腸、大腸内でのなまれる消化によつてたくさん残渣ができるわけである。これが次第に大腸の下部におくりとどけられる。残渣の水分は大部分大腸内で吸収されてしまつており、大腸内で分泌されてた多くの粘液、また残渣のはつこうや、腐敗作用によつて発生した臭気などがそれに混じつてゐる。この物質が不潔で、しかも有機体にとつて有害であることは言うまでもない。それが生理機能の作用によつて肛門から体外に排泄されるものである。

**排尿** 排尿は身体機構の系統からい

うと、排便とよほど性質がちがつてい  
る。それは主として、身体の代謝作用  
にともなつておこるものである。身体  
内でできた蛋白質の分解物、また、腸  
内で蛋白質がふはいし、それから体内に  
吸収解毒された不要な物質が主な材料  
となつて尿のつくられる過程をたどる  
ものである。その外、体内でできた異  
常物質(有機体の存続に役立たない)、  
また体内にあやまつて入つた同種の物  
質などは、凡て同じような過程をたど  
つて、体外に運びたされる準備をとる  
ものである。

右の理論からも判るように、尿ので  
きる材料とは、すべて血液からうける  
もので、その大部分が血漿から分離さ  
れるものである。したがつて、その構  
成の要素も、血液のあるものをのぞい  
たそれに、非常に近いものといふこと  
ができる。その持ちようは、両者とく  
らべると、尿は水分が多く、膠質が皆  
無で塩分、尿素が多いということにな  
る。

尿排泄の機能についていうと、腎盂  
に集つた尿が、次第に腎盂内にたまる  
と、腎盂に収縮が起つて、尿を輸尿  
管内におくられる。この収縮が、蠕動  
となつてあらわれるので、尿は輸尿管  
から更に膀胱におくり込まれる。膀胱  
の膈は、たてよこの筋からなるもの  
で、これを排尿筋とよんでいる。また  
膀胱から尿道にうつるところに、二種  
の括約筋がある。その一つは平滑筋か  
らできている内膀胱括約筋であり、い  
ま一つは、それより下部にあつて横紋  
筋からできている尿道括約筋である。  
有機体の有続に不要な尿は、右にのべ  
たこれらの尿排泄の機能のはたらきに  
よつて、適當時機に体外に排泄され  
る。

## 二、排泄の意識

生理慾望の教育の立場から、意識の  
問題は相当大きく浮び上る。なぜなら  
ば、人間が社会生活の面で、これに統  
制を加え、また調整をおこなう後に当

るのが、外でもないこの意識だからで  
ある。

排泄の意識作用とはどのようなもの  
であろうか。糞塊が直腸に相当量たま  
ると、直腸壁にある求心性神経を刺戟  
する。この求心性衝げきは、後にのべ  
る排泄の反射運動をおこすものである  
が同時に大脳におくりとゞけられる。  
こゝで便宜をもよほしてくる。有機体  
である人体からながめるならば、不必  
要であるだけでなく、有害な糞塊が重  
苦しく直腸にとどまつているその感覚  
は不快であるのみならず、それから医  
やされたい慾望となつてあらわれるも  
のである。便宜はこの役割をはたすも  
のであり、したがつて慾望の意味とあ  
らわすものである。

排便の場合の意識はまた、有意的な  
ものであるだけに、生活環境が排便の  
好適条件になつておらないときは、排  
便をおこなわない役にもあたる。それ  
は、直腸と肛門の括約筋のゆるみを抑  
制するものである。

排尿の場合も、同じ理くつで説くことができる。膀胱に尿がたまると、膀胱壁にうける圧進は、求心性の神経をはたらかせて大腸につたえられる。こうして尿意の感覚をおこすものである。

右に述べた感覚が慾望のかたちとなつてはたらくことは、排便の場合と同じであるし、また、社会生活の面で抑制の役目をはたすことと、排便の例と同じ理くつで説くことができるものである。これに当る機能は、前者が直腸と肛門の括約筋であつたのに対して、後者は膀胱と尿道の括約筋があたるものである。

### 三、排泄の慾望とリズム

排泄の慾望が、リズムの法則にもとずいて活動する状態は、極めて明りよりにながめられる。その法則とは、飢えの慾望の例でみたと同じように、第一は、排泄がおこなわれて、満足と平安の気もちがもちつづけられていると

きである。第二は、排泄物が体内にだん／＼とちく積されてきて、これを排泄する必要を感じだしてきているとまでである。このときは、第一でもちつづけられていた満足と平安の気もちは失しなわれて、これに代る不安感がつづてくる。そして、排泄を欲しくする。排泄にともなう不安感、排泄物が体内にちく積されなくとも、おこる例がある。それについては、排泄の不適應な行為として後にとりあげることにする。第三は、体内にちく積された排泄物が排泄されたときで、このときは言うまでもなく、第二の過程で感じられていた不安定は解消される。

排泄リズムの法則について、とくにとり上げたいところは、これが社会生活と深いむすびつきをもつという点である。すなわち、人は排泄にともなう不安定から解消されることを必要としていること勿論であるが、これが、社会生活でどの時刻に遂行するのが適当かということである。この適当さは

かられるかどうかは、人の社会生活を好都合におこなうことができるかどうかをきめることになるので、教育の面から非常に大切な条件となる。

排尿の社会生活の適当時間について前稿でのべたブラツツのセントヂオーヂ、スクール（年齢二才から五才まで）の例をあげれば、

午前九時（子供が登校して授業につ

く直前）

午前一〇時半—一時（果汁又はト

マト汁をのむ直前）

午後一二時半—一二時四五分（昼食

後で、午睡に入る直前）

午後二時半—二時四五分（下校直前）

この学校では、家庭にかえつた子供の排泄時間を、左のようにのぞんで、協力をもとめている。

午前七時—排便、排尿（起床直後）

午後四時五〇分（入浴直前）

午後六時五〇分（就寝直前）

### 四、生来的反応とその変化



排泄できる生理慾望が、社会生活で教育活動としてとり上げられる大きな理由は、この「生来相反」とその変化にあるのである。

(一)排泄の生来的反応 排泄の行動が有機体の生命を持續するのに不可欠なものである限り、人の誕生時からおこなわれることも亦事實である。人の誕生時の排泄の持ちようとは、無意の、かたちをおこなわれているもので、この時期の排泄作用は、便であつても、尿であつても、反射作用によつておこなわれるので、神経活動の中心となるものは、生理的な刺激である。すなわち排便の例では、直腸壁に加わる圧迫によつて、求心性の神経を刺激して、反射的に直腸の収縮と肛門の括約筋のゆるみがおこることによつて、これがおこなわれ、また、排尿では右の反射運動は膀胱の収縮と、他面、膀胱を尿道の括約筋のゆるみによつておこなわれるものである。

生来的反応の持ちようは、それが天

与の生活活動であつて、学習または教育を必要としないということである。ゆえに、これは非文化的また非社会的な生活態度であるといえる。同時に、進歩のないものである。

(二)生来的反応の変化したものの排泄の行動が、社会生活の面で様々な制ちをうけることは言うまでもない。人が社会人として育つてゆく場合、この制ちうは当然うけなければならぬことである。それには教育が必要であることは言うまでもない。そこで、この教育が、とくに生理慾望の面からどうとり上げられるかとながめてゆくのか、この項の内容である。

(1)排泄の教育の可能な年齢その他の

条件

今日までの多くの幼児の教育の書によく書かれていたことであるが、幼児がおむつを濡らさなくなるために、極く幼い頃から排泄の習慣をつけることが必要であるというのである。いま一つは、濡れたおむつを速やかに変えてゆ

くことであるといわれた。つまり、おむつが濡れない頃を見計らつては、臀部を外気にさらして、「ウン」なり「シーツ」なりのかけ声をかけてやつて、排泄を外でおこなう慣わしをつけさせるというのである。

ところが、生理学者であるブラッツ教授は言う、右にのべた類の訓練は、子供が少くとも満六ヶ月に達しないかぎり、無意味なものであると、というのは、子供はこの年齢に達しなければ自意で排泄行動を支配するから、換言すれば、これを排便の例で説けば、外部からあたえる臀の刺激によつて、直腸に求心性神経のしりょう撃をおこしてこれを大脳につたえ、便意を催させる能力を、もち合せておらないというのである。結局、排泄の訓練をはじめられる年齢とは、満六ヶ月からということになる。

次に、社会生活で、排泄は場所によつては屢々抑制しなければならないとすべきである。この可能な生理的条件はど

うであろうか。つまり、がまんのできる科学的基礎である。これを排尿について、がまんのでき時間とは、これを幼児の排尿についていえば、前掲したように、大体二時間若しくは二時間半が正常である。この時間とは、幼児の年齢でいうと、膀胱に約五〇cc(二勺半)の尿のたまるときである。大人の場合、これは二〇〇ccに相当する。この時機に、尿意をもよほすものである。

尤も、膀胱は伸縮力にとむもので、身体のおたくまつているとき、精神の平安なときには、伸びがきく。この好条件は睡眠中である。この時期には、幼児であつても一〇〇cc位の量にたえられるのは、普通のことである。

#### (9) 排泄行動の社會面に於ける注意

社會生活で注意されなければならない排泄の行動は次の二点である。そしてこの二点は教育の対象となるものである。

#### 衛生の觀念 排泄物が有機体として

有害なものであり、且つ不潔なものであることは、すでに述べたが、人の群がつている社會生活に於ては排泄は一定の、しかも衛生設備のととのつた箇所でおこなわなければならない。この条件にあてはまるものは、便所であり、排泄後のフラッシュ(水流し)であり場所をよごさないことであり、また手を洗うことである。洋式であると、右のべたうちフラッシュと手を洗うことは、徹底して衛生の目的をはたしている。とくに、手は石けんを用いて洗つている。日本の手洗いは、たら／＼つと水の落ちる水桶の下で、ほこの指さきだけを濡らすのもつて事足らしているのがある。これは観念的な手洗いで、衛生の目的を達しておらなく。とくに、日本では、回虫、ぎよう虫などの寄生虫の卵が、排便からばい介される例が非常に多いので、よろしく、水を多量に用い、石鹼を用い、場所によつては消毒液を用いる、実用的手洗いであらためたい。この習慣を是非幼

い時代からつきたいのである。教育はこの衛生目的をはしりたい。

**性の觀念** 排泄は男女とも直接性器に関わりをもつものである。ゆえに、文明社會では排便の箇所とは隠れた場所があてられ、また公衆用の便所では両性が分れているのが普通である。社會人はこの用法にならうのが当然である。とくに、文化の高いと思われる國家社會(例えば、アメリカ)では、男子が女子の公衆便所に入るようなことがあれば、銃殺してもよろしい、という習わしすらあるので、そのような社會では、この種律すらまもらなければならぬ。これが教育目的にあげられる。

**排泄の行動** 排泄の教育を遂行するのに、子供の排泄の行動が、年齢に応じてどう発達してゆくかの基準を知ることが大切な条件となる。それについての、フラッシュの極く大まかな調査は  
満二才—大人の手伝を完全に必要と

満三才—パンツの後のボタンの手伝を必要とし

満五才—完全に独立できることになつてゐる。

## 五、セント・デオーチ・スクール

さて、こゝで前稿であげた、ブラツツの指導するセント、デオーチ、スクールで排泄の教育をどう実際にどうしているかを紹介しよう。

右の学校が、生理慾望の教育に當つてゐることは、前にのべた通りであるが、以下の諸点を右の観点からながめると興味多いものといえよう。

**第一は、排泄の機能を、子供の社会生活に即応できるものとする**ことである。排泄は、ときと場所とによつてのみ許されるものである。子供は、これ以外に対しては、抑制しなければならぬ。この場合にはたらく生理機能とは、排尿の場合は、尿道の随意筋をゆるめないのであることである。幼児時代

でも極度の抑制でないかぎり可能である。

**第二は、規則正しい、時間をおいた排泄の習慣をうちたてること**である。これは社会生活で必要事である。前述したように、セント・デオーチ・スクールで二時間乃至二時間半の時間を置いて排泄の訓練をしているのはこれがためである。これも直接は膀胱の訓練ということにある。

**第三は、排泄行動の独立**である。前述もしたように、排泄の行動は一定の年齢にもとづいて發達するものである。この独立をはかる。これは行動の独立と同時に、生活態度の独立を意味するものである。

右のような教育目的を果すために、セント・デオーチ・スクールでは左のような表を用いてゐる。

## 六、排泄の不適応行為

**抑制のできないもの** 子供がもの事に非常におびえた場合、つまり、感性

のてん倒をきたしたような場合、反射的に膀胱に収縮をきたして、排尿するようなことがある。いわゆる「そらう」がそれである。この種の「そらう」を意味をもつて抑制することは不可能である。ゆえに、この種の「そらう」に対して、叱つたり、体罰を加えてたしなめることは生理条件に反する。

**不安や心配が原因したもの** 右ののべた事情ほどではなく、不安があつたら、心配をすると、身体は全体にきん張るので、膀胱が除々にではあるが収縮する。したがつて、尿意をもよおす。よく、子供が叱られたとき、また新入児童が排尿をうづたえることがある。これは、不安にもとづいて、膀胱が収縮してきたよい例である。このようなきときは、当然排尿を許してやらなければならぬし、また、不安をとり除いてやらなければならぬ。

**愛情をとり戻そうとして** フロイド学派の人たちが屢々引用する例に、幼い子供の下に赤子が生れて、母親の愛

排泄の記録

子供名 ( ) ※110

日	時間	曜	日	便	曜	月	水	曜	日	木	曜	日	金	曜	日
日 課	9.00	-		a	-		a	-		a	+		a	-	
	10.30	+		b	+		b	+		b	+		b	+	
	12.30	-		c	+		c	+		c	+		c	+	
	2.30	+		d	-		d	+		d	+		d	+	
命 令 で	11.30	+		11.30	+		9.30 から 9.45	+		9.45	+		9.45	+	
										12.00	+		11.30	+	
自 発 的 に															
無 意 識 に															
排 便															
自 発 的 に															
無 意 識 に															

※ この子供の年齢は、2歳八ヶ月

が赤子に向けられると、その幼い子供はお寝小をする。これは母親の赤子に向けられてしまった愛情を、とり戻そうとする願望が潜在意識となり、これが睡眠中又はゆめではたらいで、その幼い子供を赤子にさせ、母親の愛情の

(25頁より続く)——ことを感じ、文部

省建築モデルスクール候補校の指定を通い、昭和二十七年五月名古屋市長立第三幼稚園ほか七園を指定して、実家と建築家が一体となつて実際に研究調査する対象として今後幼稚園を増設したり改造する場合の資料を提供するものとした。

昭和二十七年五月一日の実態調査の結果によると、公立幼稚園だけでも幼稚園基準の最低必要面積に達するまでには、まだ三七、〇〇六坪を要し、現在ある園舎の中にも建築基準法第一〇条によつて使用禁止命令を受けた危険園舎及び禁止は受けないがこれと同程度のものとあわせて六、〇三六坪もある。ここで指導を受けている幼児は五、七五〇人もいるが、これらの幼児は毎日々々生命の安全をおびやかされながら生

はたらきかけを、彼に向けさせようとするに外ならないと。この種の「そら」は母親の眞の愛情が、そらがれてはじめて、その姿を消す。  
場に応じられない 子供が便所に馴れないとき、或は日本の便所のように

活している。

## 五

かねてから園長や教諭のよき相談相手となるために、指導主事が一堂に会して研究協議したいとの要望があつたが、昭和二十八年三月、二、三、四日の三日間その第一回が行なわれた。

以上の現状から幼稚園教育のすう勢はおのずからうかがえると思うが、次第に、幼稚園教育の認識がたかまつてきている。幼稚園に入園を希望する幼児が急激に増加してきている。幼稚園を計画的に増設しようとしてきている。教育内容や指導法を系統的に研究しようとしてきている。教員の充実と質的向上を図ろうとしてきている。施設設備を最も教育効果があるように、しかも

下が見えて恐ろしさが感じられるとき或は非常によごれておるようなとき、排泄をこばむことがある。この種の不適応行為は、場からくる原因をとり除いてやることである。

経費のかからないようにしようと研究しはじめてきていること等は、明らかである。これらは何れも一日もはやく解決されるよう、幼稚園関係者が努力されることを望んでやまない。(文部事務官)



七月の幼稚園

七月の保育

幼稚園……堀合文子  
 保育所……鈴木とく

堀合文子

主 題	年 少 組	年 長 組
	<p>○金魚やさん</p> <p>前月末に金魚鉢作ったのをとっておいて、金魚や金魚鉢、金魚鉢に入れた金魚、おたまじやくし、めだかを作って簡単に金魚やさんごっこをする。</p> <p>売るばかりでなく釣って遊ぶ所も作るとおもしろい。</p> <p>○七夕まつり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短冊色紙に字でも絵でもよい。かいてつるす。</li> <li>・かざりを作る。</li> <li>・お話を聞く。</li> </ul>	<p>○水族館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を話合う。</li> <li>・お魚の絵等を部屋に飾っておく。</li> <li>・お魚をつくる。</li> <li>・空箱利用して一つ一つお魚をつるす。</li> <li>・開館の準備</li> <li>・開館</li> </ul> <p>○七夕まつり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年少と同じだが、かざりもの等に年令の差をつけて種々複</li> </ul>

観 察	お 話
<p>○金魚 六月に金魚の観察を入れたが、金魚やさんをするのに又改めて皆で金魚をよくみたい。又ちがつた所がみられるとおもう</p> <p>○お星さま 夏になるとお星様がとても美しくみえる。夜の事だし皆とみられないが、歌をうたつたり、話合つたりして、お星さまに観心をもたせたい。</p> <p>○朝顔 種子をまいておいた朝顔が花をひらくようになるから花の形葉の形、つるの様子等、皆と話合いながらみたい。</p> <p>○団扇 夏に用いるものとして、白い団扇に自分のすきな絵をかいたり切紙したりして、先生も字のや絵のをみせてあげ、部屋に三、四本おいておき、まゝごと等で用いるとよい。</p>	<p>・七夕まつりのあつまりをする。</p> <p>○夏休みがくる</p> <p>・夏休みの事を話合う。</p> <p>・夏休み中の約束をする。</p>
<p>○お魚 水族館をするために、絵なり、実物なりで種々のお魚をみせたい。</p> <p>そのお魚によつて形、色がちがうのでそんな事も話合いたいよく自分の食べるお魚位は名前をおぼえるとよい。</p> <p>○七夕まつり 年中行事として、色々飾つておまつりをたのしむ。字をかいてさげるのは字が上手になるように、又御裁縫が上手になるようにつくつてさげる等も簡単に話して聞かせる。</p> <p>お星様の話も名前をくわしく話す必要はないが、牽牛、織女位は話しておきたい。</p>	<p>雑なものにするるとよい。</p> <p>○夏休みが来る</p> <p>年少と同じ。</p> <p>○海ひこ山ひこ</p> <p>○七夕さまのお話</p> <p>○ありのおみこし</p> <p>○紙芝居</p> <p>○人形芝居</p>

音楽  
リズム

- 金魚 (歌と自由表現)
- 金魚やさん(ごっこ)

金魚になる子供、金魚やさんになる子供、金魚をかいにくる子供に分れて、金魚の子供達に自由に泳がせておく。金魚をかいにくる子供が買いに来て好きな金魚をかつてゆく。すべてピアノにあわせる事が大切な事。金魚は金魚の速さに、かいにくる人は人なりのはやさで、同曲にあわせなければならぬ。

- お星さま (歌と自由表現)
- 七夕(歌)
- 楽隊あそび

ハンドカスタ

この一学期はハンドカスタが皆上手にうてるよう計画したので、ハンドカスタで種々の叩き方が誰でも出来るようになっていた。

絵  
製作

- 金魚つくり  
背中のつどいっている金魚でも、紙一枚の金魚でもよいから、なるべく自分でかゝせたい。
- 金魚鉢作り  
四角でも四いのもよい。  
内側は水色にぬり、外側は好きな色にぬらせる。
- 金魚を入れておくところ  
四角くちはり内側を水色にして、その中に金魚を泳がせてお

- お魚のお家 (自由表現)

皆が好きなお魚になる。  
お魚達が遊んでいる中にあらしがやつてきたり、お魚達がねむっているのを、○○のお魚おきなさいとゆうと、そのお魚がおきて海の中を泳いでくるとゆう風に自由に遊びたい。

- 七夕さま(うた)
  - 朝顔(うた)
  - 夕立(リズム遊び)
- かみなりさまになる子供と、にげる子供とに分れ、はじめ子供があそんでいると、夕立がきてにげ出す。

- お魚つくり

わら半紙にえのぐでお魚をかき、二枚一緒に切ぬきその間に紙屑を入れてはりあわせる。  
この紙屑もふつくらするようにこまかく切つて入れないと、べちやんこのうすべつたい感じになってしまう。  
外の紙も画用紙でなく、うすいものがやわらかきが出てよい出来たお魚を糸でつるす。

- 海藻、岩つくり



健康の習慣	習よ慣き	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 日向であそぶ時は帽子をかぶりましょう。</li> <li>• 汗が出たら自分でふきましよう。</li> <li>• 夜おそくまでおきていけないで、はやくねましよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 立つたら椅子をちゃんと元にもどましよう。</li> <li>• 朝はちゃんと顔を洗いましよう。</li> <li>• 出したものはちゃんとしまいましよう。</li> <li>• 紙屑は紙屑かごに入れましよう。</li> </ul>	<p>いてうる。</p> <p>○七夕のかざり作り 年少だからあまり手のこまない、簡単に二つ位がよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• わつなぎ</li> <li>• ふね</li> <li>• ちようちん</li> </ul> <p>○おえかき(自由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• えのぐで</li> <li>• クレヨンで</li> <li>• 指絵</li> </ul> <p>○切紙(自由)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 年少と同じ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• よばれたら、いつでも、どこでも「はい」とおへんじましよう。</li> </ul>	<p>海の中の昆布、海藻、岩もつくつて、その中におくと感じが一そうつよい。</p> <p>この水族館は小さいのをいくつもつなげるようにしたが、黒板全体を一つの水族館にして、大きいお魚をつるすのおもしろい。お魚はずつと大きくなる。</p> <p>○おえかき(自由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• えのぐで</li> <li>• クレヨンで</li> </ul> <p>○切紙自由</p>

## 七月の保育所

鈴 木 と く

梅雨あけと共に、陽ざしもぐんと強くなつて、子供たちは、だま

つていても裸になつて飛びまわり、水をいたずらし、活動も、はげ

しくなると共に、疲労についても注意しなければならない時期です。

七月、八月の保育所は、欠席する幼児はあつても、事業そのものは夏休みのあるべき筈はないのですから、この二ヶ月間は、すき間のない保育案を立てて、その通り実行しようとか、つたら、保母も幼児も、へとへになつてしまひましょう。

夏期は又、特別生活指導の面でも注意しなければならない点があり、保健の上でも細い注意をくばらなければならぬので、その様な保母の留意点は、どんなに委しくしておいてもよいと思います。が、私のこゝで云う保育案は、遊びを主体として展開するもの、事です。大まかに、目やすを立て、幼児の自由な活動、自由な観察自由な表現を主体としたいと思います。

暑さの為に、気分もだら／＼となり勝ですが、一日のプログラムの中に、適当な小休止を入れて、生活上の注意に、何かと気をつかつて居ると、絶対に、一日が長くてたまらない、と云う事はありません。

健康保育の点から云いましたら、種々な、積極的健康保持の為の鍛錬に入りやすい時期です。

シャワー、行水、裸遊び、水遊び、冷水摩擦、乾布摩擦等。  
午前中の少休憩、午後の昼寝。

赤痢、その他の悪疫予防の点からの、手洗いの徹底と、買喰いの防止。

食事の際、よくかんで食べる習慣。

これ丈の事でも、一日中の保育の中でそれを行う為の方法、手順

等のプランを考えましたら沢山あります。そして、之等は、その日一日で終るものでなく、継続して習慣づけなければならぬものです。すから、七、八月の二ヶ月間のプランとしては十分なものです。

遊びの点から見ても、五月に播種した、夏の花、朝顔、日向は、年長組ならどの様な観察のし方を、中の組なら、どんな育て方を、と考えられますし、都会でも金魚、亀の子、自然に恵れた土地でしたら、いろ／＼な小さな生きものと遊び、それを獲り、飼育するプランが立つ事と思います。

夏ほど、幼児がその中に浸りきり、その命を躍動させる季節はないでしょうし、又、ふとした不注意から、その命をうばわれる事多い季節でもあります。

七、八月の保育所の幼児は、生活の指導と健康保育の万全を期待しながら、自然に恵れない都会の幼児はなおさら、それに恵れ過ぎた環境の幼児も、思いつきり夏の自然の中で遊ばせる保育を、念頭におきましょう。

あの入道雲の様に、ぬーつとした、動かぬと見えながら変容ある様、風鈴ののんびりしたひびき、それが、夏の保育所の感覚でありたいものと思います。

### ○各週のメモ

七月第一週、第二週

○六月末日から、昼寝についての、種々な手順や、準備をする。

○これの為の、生活時間や、躰の点につき各組の連絡と、プランを立てる事をする。

○七夕祭の製作、七夕祭の催の計画を立て催をする。

七月第三、四週

○シヤワーの後の体ふき、冷水摩擦についてやり方等研究し実行する。

○屋寢に関連して起る問題、よふかし、朝寢防、性的いたずら等についての対策をたてる。

○お盆とか、川開きとか、花火大会とか、土地の風習を考えて、保育の中に適当にとり入れる。

七月第五週

○保護者会を開いて四月——七月迄の保育状況報告、語り合いを計画する。

○右の為の、各組幼児の身体発育、健康状況、能力の度合等、個人的に話合える資料をつくる事。

○八月中の保育をどの様にするか。(常に変わった状態にあるとみて)考える。

◎生活指導と健康保育の面から、

健康保育については、愛育研究所の平井信義先生が本誌に一ヶ年間委しくのべられたものや、その他の雑誌、又は他の先生方の著書等から得たものと、実施に際しての諸注意を記憶して、先実行してみましよう。

そして、之には、必ず、生活指導がつきまといまわすし、それをだらくなくすると、幼児と、保母も混乱して、大変だ、と云うことになって、幼児の為に、する事がよいとわかつていても、する事が面倒になります。

○裸遊び、については、暑くなる時期は、自然の要求ですから、行儀が悪い等と考える方はもうないと思います。むしろ寒さに向う迄に、親の理解を得る事でしょう。

○シヤワー、と云つても、立派なとりつけがない所はジヨロでします。最初は日向水をつくつておいて、それからだん／＼に水で。プールに入つてさせる水遊びより清潔な様です。

○冷水摩擦、四、五月頃からはじめた、乾布摩擦を、年長組だけ冷水摩擦にかえる事もよいと思う。年中組では、手拭をしぼつたり、力を入れてこする事が、ひとりできよく出来にくいから。

○右の二つについて伴うものは、

・体を拭く事、全身をもれない様に。(年長)

・手拭をしぼりしぼること。(年長)

・友達の中や、手を拭いてあげる。(年中、年少)

・足の汚れは自分できれいに洗い、拭くこと。(各年令)

○屋寢については、もう五月頃にその準備について考える様にしたのですが、何処でも、設備の事で、梅雨あけに、それが始まる様です。

・着物をたゝむ事。

・ねまきに着換えること。

・真座をしき、布団をしきこと。

・ねる前に用便すること。

・静にして、ねむいお友達に邪魔にならない様に。

・起きたら、顔を洗つて、汗もふくこと。

・自分の布団、お友達の布団も片すける。

・保母と向き合いでシーツをたむ。

之等の殆が、上手、下手はあつても、三才児から出来ませう。たゞ「友達に邪魔にならない」と云うのは、なかなか年長でも出来ませぬ。誰かひとり、ゆつくりした気持で、部屋について居ますと、大体出来ませう。

昼寝に伴つて、家庭から来る苦情は、夜、なかなか寝ない、と云う事です。之は、昼寝の睡眠時間を決める事と、家庭に、就床時起床時の注意をして協力を得る事をします。と、少しよい様です。

眠りつくと、保母もほつとするので、保育室を片づけたり、連絡帳に目を通していたりすると、時間を過してしまいますしよく眠つてゐるから、かわいそうと、家庭のお母さんの様に、何時迄も眠らしておきますと、幼児個人の生活も、保育所の生活も乱れてしまいますから、注意しましょう。

夏は伝染性の悪疫になやまされませう。

○食生活の指導を、幼児にも、家庭にも行いませう。

・手は、よく洗うこと。

・汚れた衣服の上に、食事付、ナフキン代りのエプロンを、出来たらさせたい。

・よく噛んでからのみこむ習慣をつける。

・食事時間を、いそがせない様に、たつぷりとすること。

・給食について、家庭とよく連絡をし、家庭からのお弁当のおかずの指導もすること。

・お小遣いの用途について、家庭と共に、買喰い、不潔な手の

ま、路上で食べる事等々を注意すること。

食事についての習慣は、三才児の場合でも、七月末頃迄には食器のおき方、よくかむこと、こぼれたのを後で拾うこと、すんだら同じテーブルのお友達を待つこと、お弁当箱や、箸箱のしまつ等は、大体訓練が出来ますから、新入の五才児でしたらもつと早く、出来上ることでしょう。

◎遊びについて

○水遊びについて、それに伴う工作の種々なものを考案する。

○あくまで自分達のもつ力を出させたい。みかけは下手でもかまわぬ。

水鉄砲、紙バケツ、紙こつぷ、舟等。

○生活につながるものとして、洗濯、植木の水まき。

○朝顔の個人別、日まわりの個人別、金魚のグループ、ひめだか亀の子のグループ等は年長組として面白いが、育てる事に興味のない保母さんでは、忙しくて、と云うだけで続かない。

○七夕の笹かざりは、各自、思いの物をつくらせたい。

○はさみの自由な作業から生れるものを、すべてこよりで結んであげたい。

○長い／＼ふきながしや、わつなぎは、共同の喜び。

○針をもち、筆をもつことも、創作の材料経験を豊富にさせる。

○裸体で、手足の自由なリズム運動をさせ、各年令で、どの程度の事が出来、また無理なく訓練し得るかみて行きたい。

四、五才児では、この月一杯位で、遊びの材料の基本的な操作訓

練が出来上るのではないかと思ひます。四才児と五才児では、そのやり方に巧拙はあつても、使用し得ると云うゆめやすはつきます。たゞこの以後の、順序立てを、どの様にするかは、各自の受持つ幼児の状態をみなければ、計画は立たないと思ひます。

三才児は、何とか一語になつて、ごっこ遊びを中心とした、各保育内容への展開が出来はじめる様です。たとえば、動物の水あびごっことか、お散歩ごっことか、海水浴へ行きましようごっことか、説話的リズム遊びもすこし形をかえて、その中に、製作の歌も運動も、お話も入れて行くやり方です。

材料を中心とした、自由な遊びと、或時間一斉にする、きる、折る、やぶる、たたく、ぬる、描く、歩調をとつて歩く、スキップする、ガロップする等の基本的なことの中に、前述の様な遊びを計画するのです。

歌は、私の経験では、へ調4拍子の八小節位のものでしたら、相当上手に、みんなで歌えます。けれども、楽器でない、音程ははずれ勝ちです。四、五、六月生れで、四才になつたばかりの幼児が多い時と、十月以降生れが多い場合は、大部違います。

### ◎家庭との連絡

母の会については、五月にその要旨を書きましたが、母の会は、最後のねらいを地域の母の向上としたいのですが、も一つ、保育所の保育方針を家庭に理解して頂いて、幼児の幸福を少しでも多くしたい、そして母の育児の考え方を進歩させたいと云う目的から、一学期に一度、保護者会をしてはどうかと考えます。

出席についても、父母共にでありたいのですが、お父さんは、幼

児の事になると、なかなか出席して下さらないので、お父さんに、幼児保育について関心をもつて頂く工夫をする必要があります。

七月末に、その組の、体重、身長を表や、四月から七月迄に、どんな目的で、どんな事をして遊んだか、生活の指導は、どんな事やどんな風にしてしたか等説明して後に、各個人についての質問をうけます。

吾が子を対象としての話し合いですし、クラスにわかれますと、小人数ですので、話ははずみます。

この場合、自分の子供の事だけをきりなく話してあげる母親を上手に切り上げて、次の人にうつる事が必要です。

保育の上で、家庭生活に於ても協力してもらいたい点、幼児の扱い方について特に感情面で考えたり、改めてほしい点等につき、クラス全体的にと、個人的なものに分けて、ポイントをメモしておく必要があります。

その他、生活指導の面で取り上げた事についての夏期中の、生活のさせ方の了解を得る事。

出席不可能な家庭へ、通信なり、個人的面接なりで、保護者会の大要を知らせる等、忙しい保母としては苦勞ですが、保育の効果をあげる為には、骨折り甲斐のあるものと信じます。

私設の中には、保母がこうして直接父母と、保育について話す事を賛同しない傾の所もあると聞きますが、保母の熱意が通じれば、道は何時かわ開けるものと思ひます。

# 官庁公示連絡事項

## 昭和二十八年年度の幼稚園小学校

### 研究会の実施について

四月七日付文初特第一九九号で文部省から昭和二十八年年度に実施する幼稚園小学校の研究会の大綱が各都道府県教育委員会と都道府県知事と大学の学長あてに示された。その主な点をあげると次のとおりである。

#### 一、研究会の目的

- 1、地区内の都道府県における初等教育の分野で、教職員の研修を通じて現場の直面する諸問題を総合的に研究し、その成果を地区内に普及徹底する。
- 2、地区相互に研究の成果をわかちあう。
- 3、これによつてわが国の初等教育の改善と教職員の資質の向上をはかる。

#### 二、研究会の規模

- 1、主催者  
開催都道府県教育委員会、大学、市教育委員会ならびに文部省
- 2、期間  
六日間
- 3、地区区分  
開催都道府県ならびに参加都道府県

地区	開催都道府県	参加都道府県	県数
北海道 山形	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島		

4、実施期日と会場市		地区	会場市	期日
九州	長崎	福岡、佐賀、鹿兒島	長崎、熊本、大分、宮崎	7
中国	山口	島根、香川、愛媛、高知	岡山、広島、山口、徳島	9
近畿部	兵庫	和歌山、滋賀、京都、大阪、奈良	富山、石川、福井、岐阜、愛知、三重、兵庫、奈良	12
関東	栃木	茨城、栃木、群馬、新潟、山梨、静岡	玉川、千葉、東京、神奈川、山梨、静岡	11
北海道	山形市			九月二十五日(金)～九月三十日(水)
関東	宇都宮市			七月 六日(月)～七月十一日(土)
近畿部	神戸市			九月二十八日(月)～十月 三日(土)
中国	山口市			七月二十七日(月)～八月 一日(土)
九州	高崎市			十一月九日(月)～十一月十四日(土)

#### 5、会員数とその選考基準

- (1) 各地区三〇〇人ないし四〇〇人  
会員選考基準は左による。
- (2) 国公私立の幼稚園小学校の校(園)長、教諭、養護教諭及び教育委員会の指導主事、主事、研究所員、その他、初等教育関係者の中から、地区内の都道府県における初等教育の分野で指導的役割を果すべき教職員を選出する。

この子供たち  
(3)

荒野を通りぬけて

イーデイス・ウォートン作  
松原至大譯



E・ウォートン夫人

「母や父が、私たちと旅をしたがらない」と、あの少女は言っていた。

「母や父。」そう言えば、ポインにとつては、あの昔なじみの、クリフ・ホキータ夫妻のことでは、あり得なかつた。そうだとすれば、隣りにいたやせすぎで、しつかりものらしいあの少女は、結婚後間もなく生れた最初の娘にちがいない。そしてその後、十三、四年して、あの娘が抱いていた健康そうなチップが生れたのだ。

「いやに古風だな、なにもかも。」と思うと、ポインは夫婦というものに対する考へ方に、勇気づけられた。そしてドロマイツに待つている、もう五年も会わない婦人に会いに行くことも、より多く軽やかに思えるのであつた。チップのようなまるとした子供を持つ親は、さぞかし楽しみにちがいないと思うのである。

けれどポインが、クリフ・ホキータ夫妻の謎を、首尾よくといたと思つたのも束の間、ジニー、バン、ピーチーという妙なトリオのことを思いたすと、ポインが手際よく描いた方程式は、混乱してしまつた。ジュデイスを一つの端として、チップをもう一つの端として、こわれない一つのサークルを作つているように思えるこの家族団の中に、お

母さんのちがう子というのは、一体どこに位しているのであろう。パンとピーチーが、あの少女のいつたように「外国人よ、イタリヤ人よ。」であるならば、この二人は、ホキータ氏にも、夫人にも属していないことになる。

オレンジ色をしたもじやもじやの髪の下に、上をむいた鼻がついている。そばかすだらけの生意気なジニーの顔はほかの小さなイタリヤ人たちとは、血がつながっているとは思えなかつた。ジニーは、全くのアメリカ人のように見受けられた。ほかの三人の兄妹よりも、アメリカ人らしかつた。ほかの三人は、コスモボタリン的交渉によつて、よほどずれていたからである。これらの母のちがう子供たちは、植物学者がいうところの種族を代表する確然さを持つていた。それに比べて、ジュディスやフランカやテリーは、庭に咲き出た美しい雑種ともいえるであらう。

ポインが、そう思っているところへ、スコープと呼ばれる婦人がきた。かの女にとつては、ポインがクリフ・ホキータ夫妻と友だちであつたということが、確かに安心感を与えた。

「ジニー君は、たしかに外国人ではありませんね。」と、ポインがいつた。

「いえ、私どもの習慣に比べて申しますと、外国人でございますよ。お父さんの方に——」と、スコープは言いかけてから、声を小さくして、あたりを見ながら続けた。「あなた、ジニア・ラクロスという映画スターをご存じでございましょう。」

ポインは、やつこのこと思い出した。

「いつぞや、競馬に關係のある男と、結婚した女じやありませんか。ロードなんとかという。」

「私はあの人が、最近どんな大それたことをしたか存じませんが、ホキータさんと結婚したことは、大それたことございましたよ。そしてジニーさんが生れまして——」

ジニア・ラクロスが、クリフ・ホキータと結婚した。そうすると、チップストンの母親は、一体だれなのか。ポインは、

「もうこの上の謎は、やめてくれ。」と、がなりたい思いに駆られた。だが、打ち明け話に調子づいたお隣りの人は



おかまいなしに続けた。

「ほんとうなのでございますよ。ホキータさんが、ジニア・ラクロスと結婚なさつて、ジニーさんが生れました。ほんとうのところ、ホキータさんばかりが、いけないのではございません。奥さまが家出をなさつてからというものは、ホキータさんはすっかり元気をなくしていらつしやいました。それに是非もうひとり、男のお子さんをほしがつていらつしやいました。あの沢山な財産の相続人といたしまして。」

ここでボインは、水におぼれた人のように、助けを求めなければならなかつた。ホキータ夫人が、ホキータ氏を捨てたそれはいつだろう。どういふ風にして、またなぜだろう。ボインは、この用捨のない話し手に、一つずつ話してくれるように頼んだ。こんなに一度に大勢の大人や、子供が出てきたのでは、かれのように長い間、「荒野」にばかりいた人間には、なにがなんだか、わからなかつたから。

「荒野とおつしやいます。ほんとうの荒野は、私どもの住んでいるところでございますよ。いく週間か居ては、また天幕テントをまいて、よそへ出かけるのでございますもの。結婚は、ちやうどその天幕のようなものでございます。用がなくなれば、たんで捨ててしまふ。」スコープは、同情してもらつたためには、よくわかるようにお話ししなければならぬと思つた。あたりを見廻してから、秘密を説明するためにすわりなおした。

ボインにとつて、ありがたいことには、バンとピーチーは、ホキータ夫人の子供ではなかつた。かれらは慎しみのないボンデルモント公爵と、あるいはやしい一婦人——サーカスの女との間にできた子供で、公爵は正式に、その女と結婚したのだが、気の毒なホキータ夫人が、公爵に迷いこむ前に捨てられてしまつた。

「奥さまは、ホキータさんにむかつて、公爵といつしよになるのだから、別れて下さいといはりました。ホキータさんは、大そう気前のよいところを見せて、「非は自分にある」とおつしやつて、離婚をお認めになつたのです。けれどもいい分ぶんとして、テリーはご自分の手元におくこと、ジュティスとブランカは、毎年四カ月だけは、父をたずねてくれることを主張なさいました。そして手切れ金のことで、大もめができて、奥さまは、子供のことについては、

護歩ならなければなりません。ジュデイスさんが心をいたため初めたのは、その時からでございます。たとえどんな小さなことについても、両親が争いをするということは、ジュデイスさんにとっては我慢のならないことでした。」と、スコープは説明した。

だが、そのジュデイスも、しまいには慣れつことなつてしまつた。ただどうしても慣れることのできなかつたことは、この離婚と二組の再婚とが成立した後に、テリーと別れて、毎年プランカといつしよに、ホテルからホテルへと二組の両親のいるところを往復させられることであつた。ジュデイスの顔が、大人びているのは、そのためだと、スコープは思つていた。

幸に、ホキータ夫人の迷いは、そう長くは続かなかつた。結婚して一年もたないうちに、公爵は本性をあらわした。それで迷いからさめた夫人は、公爵と離婚することになつた。その時夫人は、バンとピーチーとがかわいそうでならず、二人をひきとつて、ずつと手元におくことにした。いうまでもなく、その子供たちの父親は、願つてもない幸と喜んでいたのである。ここまで語つたスコープは、「おわかりになりましたか。」と、ポインに念をおした。ポインは、

「ええ。わかりかけましたな。だが、チップストーン君は。」と、きかずにはおられなかつた。

「ああ、チップちゃんでございますか。あの子も、ホキータ家のものでございますよ。お父さんに生きうつしとはお思ひになりませんか。ホキータご夫婦は、初めてご自分たちのあやまちに気がおつきになつて、初めから出なすことにして、三年ほど前に、お二人は結婚をしながらされました。それからチップちゃんが生れまして、万事をまるく納める役をなさいました。今のところでは。」

「今のところ。」と、ポインは息をついた。家庭教師のスコープは、褐色の髪をなであげてから、やつれた顔を、ポインの正面にむけた。

「私が、事実を申し上げたいと思ひますれば、どうして『今のところ』以上のことが、申し上げられましよう。こ

れもみんな十三才のジュティスさんのおかげです。何ごとも今は無事に運んでおります。ジュティスさんのうしろには、子供たちがみんなついていきます。子供たちは、もう離れ離れになるのは、いやだと申しております。つかみ合ひはしますけれど。」これが、その答えであつた。

デッキが響くて、まぶしいのと、ほかの船客がうるさいのとで、ボインは、木を手にして、昼食後ぼんやりと、ベットの横になつていた。

「おじさん、ゆつくりお話をしたいんですが、いいでしょうか。」細つそりとして、灰色の装いをした小さな訪問者が、ドアよりかかつていた。テリーであつた。ほお骨のあたりが桜色になつて、まつ毛の長い目が輝いていた。時としてこのすなおな少年の顔は、いたいたしいほど美しかつた。

「やあ、いいとも。もう少し涼しくなるまで、ここにいた方がいいですよ。」

テリーは、ボインのそばの椅子に腰をおろした。

「なにかご用、テリー君。」

「ぼくに、家庭教師をつけてくれるように、すすめてくれませんか、あの人たちに。」

「あの人たちに。」

「ホキータ夫婦のことです——お父さんとお母さんのこと。」と、テリーは大人らしい口調で、いいなおした。ボインは、この子供たちが、両親を呼ぶのに、姓をつかうことは知つていた。スコープの説明によると、かれらが、旅から旅への生活を續けているうちに、できた大勢の友だちの間では、お父さん、お母さんという言葉が、連綿的に、または同時に、いろいろな人を指して使われていたので、自然にそういう習慣になつたというのであつた。一昨年ピアリツで出会つた髪黒い、大きな真珠の耳飾りをつけた驚くべき少女などは、両親がおこなつたいろいろな結婚と自分がそれからそれへと貰われて行つた経路とを、タイプでうつた表を持つていて、新しい友だちができると、それを見せていたというのであつた。それに付け加えて、スコープは、こういつたことがある。

「ただ今では、皆さんがそういうことをなさいます。つまり両親のちがつた組を、姓で呼ぶのです。それで、私どもの子供さんも、それを真似しているのですが、幸なことには、もうそんな必要もございません。お父さんとお母さんとが、もともと通り、ごいっしょになられましたから。」

「お父さんとお母さんのことなのです。」と、テリーは繰り返した。「ぼくを教育しなければいけないつて、忠告して下さい。ぐずぐずしては、いけないのです。言つて頂けるのは、おじさんのほかにはありません。」テリーの目は、熱病患者のように、ボインの目を見つめていた。その顔には、ジュテイスを時々不気味な大人びて見えるのと同じ、ませた心配そうな様子が現れていた。

「ああ、もちろん、ぼくは、できるだけのこととしてはしてあげたい。だが今度は、ご両親にはお目にかかれまいと思う。ヴェニスに着くと、汽車にとびのらなければならぬから。」

「そうですね。困つたなあ。お姉さんもがっかりします。」と、テリーはうなだれた。「お姉さんも、ぼくも、おじさんは、ヴェニスに二日ぐらいいは、いて下さると思ひました。おじさんには、してもらいたいが、たくさんあるんです。」

「君たちは、このぼくを買いかぶつてゐるのじやないかな。ご両親にはずいぶんお目にかからないから、ぼくのこととは覚えておられないかもしれない。ともかく、予定をかえてみるかな。」

「ええ、そうなさつて頂ければ。ぼくには、相談相手なんか、ひとりもないのです。スコープは、父母にはなにもいい出せないし、お姉さんは、教育のことをお話するには、あまり若すぎると、父母は思つてゐるし、それにお姉さんは、自分が教育を受けていないのですから。父母は、ただ、ナスみたいな家庭教師をつけるだけです。スコープなんて。ぼくぐらゐの年になれば、よその子は、もう小学校を卒業しています。なのに、ぼくとパンをいっしょにしているのです。」

ボインは心の中で、自分が幼い日にはいつていた**確**のことを思い出した。世の中につき出されるまでの自分は、な

つかしいシーンを見て暮してきたのである。それなのに、ホキータ家の子供たちにあつて、第一に驚いたことは、かれらがあまりに浮世の風にさらされすぎているといふことであつた。ポインは、テリーの熱心な、物ほしげな視線に堪えられなくなつた。そしてなせスコープが、テリーのことを話す時に、目をそらすのがわかつた。

「では、二、三日滞在して、できるだけのことをしましょう。」ポインは、こう受けあつた。ほかのいろいろな計画や、日取のことを、きつぱりと思いきつて。この頼みは、ポインがひそかに心の中で、待つていたことでないとはいきれなかつた。新しい友だち、わけてもジュデイスと別れることは、さびしかつた。モンレアーレへのあのピクニック、海上での晴れ続きの日、子供たちの身体から発散する生活力が、彼の身体にしみこんでいた。子供たちが結びついているつながりのはかなさと、それをこわすまいとする決心とは、ポインの心を、少からずひいた。この決心の中には、ポインには悲劇と思われるものがあつた。子供の本来の想像力を、はるかに超越した経験の連鎖と、予想の力が含まれていた。ポインの体験では、通常の子供にとつて、別離というものは、前もつて悲しむにはあまりに漠然としたことであるし、それに直面すれば、物珍しさの興奮や単調から救われることなどのために、楽しい冒険の気持ち以外に、心もとないなものも感じないものである。組立の玩具さえあてがわれれば、家からどこへやられても悲しかつたと思ひ出は少しもなかつた。たとえポリッジが、自分の家のほどおいしくなくとも、夕食の後で、童話を読んで下さるお母さんがいなくとも。

ポインは、自分が変化と名づけることは、ホキータ家の小さな人々にとつては有りふれたことで、かれらにとつての変化といふことは、過激な、身のちぢまるようなことで、ポインにとつてみれば、組立玩具がこわれたとか、折角銅つていた白ねずみが、飢え死にをしまつたとかいふことと、同じであることが、やつとわかつた。変化といふことが、家庭の人や物との暖い団欒だんらんから永別してしまふことであるとは、子供のポインには、およそ考えもつかないことであつたと同じように、ホキータ家の子供たちには、平穩無事というものは、考えられないことであるらしい。ジュデイスのいうところでは、いつも大きなホテルで知り合ひになつた小さな友だちは、大方は、かれらと同じ境

遇にあつた。小さい時に、同じところにじつと暮していることなどは、できるものではないというテリーの言葉を聞いたり、子供たちは、なぜ連合して移動生活に反対するのかという理由を、ジュディスが聞かせてくれたりする時は、ポインは、動物が虐待されているのを見ているような、いやな気持ちに襲われた。なんということである。双子のきょうだいの賛同を得ようと望む冷いブランカの自己中心と、ピーチーの極端な自己<sup>ぼんやく</sup><sub>返却</sub>との相違を考へたり、ひとり離れて、あけつばなしのジニーと、ひねくれてわがままなパンとを比べたりして、子供たちの性格の、いろいろな相互作用を見ているうちに、ポインは、かれらを結びつけているものは、遺伝作用を超越したジュディス・ホキータの強い愛に、ほかならぬいことを見出して驚いた。とにかく彼は、この連中といつしよに、ヴェニスへ行つて、ホキータ夫妻に会うことに、興味を持ちはじめたのである。(つづく)

(お知らせ)

倉橋先生を中心とした保育応答研究会は、種々の都合によりまして、残念ながら昨年十二月迄で、とり止めさせて頂きます。

毎回御熱心な多数の方々の御参加を頂きましたことを、心から感謝致しますと共に、右の件をお知らせ致します。

保育応答研究会係

フレーベル館内

幼児の教育 第三巻 第七号

定価 金五十円

昭和二十八年七月二十日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉橋 惣三

発行者

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

○本誌御購読について注文申込その他はすべて発費所フレーベル館宛願います。

# うたとあそび

B5判 上製  
定価 三二〇円  
四八円

ラジオでもお馴染の楽しいうたとあそびを、著者独特のおもしろい振付で、教材を春夏秋冬の四季に分類配列したもの。美しい挿絵と、楽譜も豊富に収め幼稚園、小学校低学年用教材として好評

# わらべうたとあそび

A5判 上製  
定価 三二〇円  
三二円

関東地方を中心とした詩情豊かな古いわらべうたをあつめ、そのあそび方を美しい挿絵と楽譜付で、やさしく説明したもの

# ハンドカスタのゆうぎ

B5判 上製  
定価 三〇〇円  
四八円

ハンドカスタをつかつてする楽しいおゆうぎのしかたを楽譜付でくわしく説明したもの

○「ハンドカスタ」も発売中

株式会社 不味堂書店

東京都文京区大塚仲町二  
電話(86)二七〇三・〇九九二  
振替東京六八七三九

發行所



お茶の水女子大学名誉教授  
倉橋惣三先生著

# 幼稚園眞諦

B6 一四二頁 予價一八〇円

久しく絶版になつておりました、「幼稚園眞諦」を改訂復刊いたしました。

幼稚園保育の、眞の在り方を、平明な説き方によつて、講じられたもので幼稚園の理解と、再考究とのために、必読の書であります。

副島ハマ先生著

# 折紙教本

B6 上製 二六四頁 定価二五〇円

品切の為大変御迷惑をおかけしておりました折紙教本がこのたび新装成つて出来上りました。御用命下さいますよう。古来我が国独特の優美な手芸として幼児に親しまれてきた折紙を指導されるには絶好の図書として広く御推薦致します。

發行所 株式会社 フレーベル館

東京都千代田区神田小川町二ノ五

8 月 号 予 告

観  
察

# キンダーブック

絵  
本

KINDER-BOOK

第 8 集

【な つ や す み】

第 5 編



☆お子さま方の感情と知識の  
成育のために古く広く好評の高い本☆

A4判16頁・月一回発行  
解説 8頁  
定価 45円・送料 8円 付

## 「なつやすみ」

夏休みは、ついごろごろと目を過しがちです。お仕事といつても、面白くないものは倦きやすい。与えられた宿題もしなければならぬとなると、興味が続きません。ふだん楽しみにして見るキンダーブックで、ただ見るばかりでなく、何か工夫してみたり、少しばかり難しさの伴う面白いキンダー・ブレイ・ブックは出来ないものかと考え、真夏におけるお子さん達の生き〜とした自然活動の友とし、また家庭保育の一助にも——と思っております。

発行所

東京都千代田区神田  
小川町二丁目五番地

株式  
会社

フ レ ー ベ ル 館

振替口座東京  
一九六四〇番